

思いがあるなら始めなさい！～旅の中から見えたもの～

今年度の福祉ツアーは先進的な子育て支援を行なっているカナダに学び、私たちの住む地域にも支援の輪を広げよう！という目的で実施されました。10月7日～14日、親子一組を含む17名が参加、緊迫した世界情勢の中での出発でしたが、あざやかに色づいた楓と感謝祭を祝うピーターボロの静かな街並みが私たちを迎えてくれました。この町での3日間はYMCAや民間団体の保育施設、ファミリーリソースセンター、保健所の実施するプログラム、青少年支援を行なっているキナークについて視察しました。なかでもノーバディーズパーフェクトのデモンストレーションが見られたのは収穫でした。

次の訪問地トロントはオンタリオ州の州都でもある多様な人種都市。かの地で再びメアリー・ゴードンさんにお会いでき、数々の提言をいただきました。開設して27年になるというダウンタウンのドロップイン、チルドレンズストアフロントでは、リヴァさんに「思いがあるなら始めなさい！」と励まされ、ライアソン大学ではリタ・ローゼン博士の案内で保育施設等の見学や教育プログラムについて伺いました。そして、子どもたちが遊びながら学ぶことを大切に作られたというチルドレンズ・OWNミュージアムでは童心に返って楽しみ…。どこへ行っても生き生きと活動する女性に出会い、子どもたちの豊かな表情と明るい笑顔が印象的でした。必要とする人がいればシステムが生まれると言われ、さすが人権が尊重されている国だと実感。連邦政府、州、郡などの公的援助や市民の寄付、ボランティアがごく普通に行なわれている点や、スピリットは異なっても、日本が学びとれる点は多くあると思いました。相手を思いやる気持ち、それが何よりも大切にされていると感じたのは私だけでしょうか？

それぞれが求めるものを胸に秘めて出かけた旅。人々の暖かさとパワーに触れ、多くのヒントを授かりました。「何かを変えたいと思う時はその問題に直面している人が動けばよいのです。必ず変えられるはず。」物静かに、きっぱりと言い切ったメアリー・ゴードンさんの言葉を励みに参加者は地域での活動に取り掛かることでしょうか。私たちに力強いGoサインを出してくれた旅となりました。

ピーターボロに着いた夜、アメリカの空爆が始まったと聞いたものの、テレビのニュースを見ることもなく毎日の視察と夜のミーティングに追われ、充実した日々を過ごしていたメンバーたち。帰国して家族をはじめ様々な方に多大なご心配をいただいていたことに改めて気がつかされました。このような情勢の中、送り出してくださったことに感謝いたします。そして、世界のどの国の子どもたちの未来も平和で明るいものであって欲しいと願わずにはいられません。

最後になりましたが、学習会の講師をしていただいた駒沢女子短期大学教授の福川須美氏、臨床心理士の永田陽子氏には資料や情報の提供をはじめ、ツアーへの様々なアドバイスを頂きました。

また、ご縁あって実行委員会から添乗までおつき合いくださったJTB新宿西口支店の能津真大さん、現地視察の細やかなコーディネートをくださったJTBトロント支店の田中有美子さん、5日間にわたり素晴らしい通訳をくださったスターシャナ・カプロさんにも遠く日本の地からお礼を述べたいと思います。お世話になったみなさま、ありがとうございました。

ツアー団長 山中 ゆう子

福祉ツアー視察スケジュール

	日付	訪問先	担当者	連絡先
ピーターボロ	10/8	Peterborough Family YMCA (YMCA)		475 George Street North, Peterborough, Ontario K9H 3R6 TEL : (705) 748-9622 FAX : (705) 741-3719
		All Seasons Learning Centre	Ms. Debbie Biasucci	217 Townsend Street, Peterborough, Ontario K9J 2K4 TEL : (705) 748-2262 FAX : (705) 748-4323
	10/9	Peterborough County City Health Unit (ヘルスユニット)	Ms. Anne Keys	10 Hospital Drive, Peterborough, Ontario K9J 8M1 TEL : (705) 743-1000 FAX : (705) 743-2897
		Nobody's Perfect Ontario (ノーパフェイストパーフェクトプログラム)	Ms. Gail Chislet	
	10/10	Peterborough Family Resource Centre (ピーターボロファミリーリソースセンター)	Ms. Betty Halman-Plumley	201 Antrim Street, Peterborough, Ontario K9H 3G5 TEL : (705) 748-9144 FAX : (705) 748-9177
		Kinark Child & Family Services (キナーク)	Mr. Allan Vallillee	380 Armour Road, Suite 275, Peterborough, Ontario K9H 7L7 TEL : (705) 742-3803 FAX : (705) 743-4144
トロント	10/11	Roots of Empathy (共感の根プログラム)	Ms. Mary Gordon	401 Richmond Street West, Suite 205, Toronto, On M5V 3A8 TEL : (416) 944-3001 FAX : (416) 944-9295
		The Children's Storefront - Toronto Child Parent Development Centre (チルドレンズストアフロント)	Ms. Ryva Novick	1079 Bathurst Street, Toronto, M5R 3G8 TEL : (416) 531-8151 FAX : (416) 588-1808
	10/12	Ryerson University (ライアソン大学)	Ms. Rheta Rosen	40 Gould Street, Toronto, Ontario, M5B 2K3 TEL : (416) 979-5000 FAX : (416) 979-5204
		Children's Own Museum (子ども博物館)		90 Queen's Park Circle, Toronto, Ontario, M5S 2C5 TEL : (416) 542-1492 FAX : (416) 542-1495
		Famous People's Players		33 Lisgar Street, Toronto, Ontario, M6J 3T3 TEL : (416) 532-1137 FAX : (416) 532-6945

カナダという国

世界で2番目に広い国土を持つ国であり地理も気候も文化も多様である。

10州と3準州からなり、首都はオンタリオ州オタワ。3000万人を超える人口の77%が都市部に住んでいる。議会制民主主義に基づく立憲君主制の連邦国家。公用語は英語とフランス語。

- ・ **オンタリオ州** 五大湖の北側にあるカナダの中心的な州。人口は1100万人を越え、大半は湖の南部、トロント、オタワなどに住む。カナダでも最も人口が多く生産性の高い州でGDPの4割を担い自動車製造業、鉱業、林産業、金融業、観光などが盛んである。移民してきた人は多数、先住民は25万人に近い。
- ・ **トロント** オンタリオ州の州都、カナダ随一の都市。人口は400万人を越える。カナダの工業製品の多くを産し、多くの企業の本社がある、金融、商業の中心地。先住民のことばで「出会いの場所」の意味を持つ。
- ・ **ピーターボロ** トロントの北東へ車で約2時間、ピーターボロ郡の中核となる市。郡全体の人口は12万人。そのうち約6万5千人が住む、川と湖が入り組んだ風光明媚な地域。第三次産業が中心で英米系の人が多数、近年は中国系の移民の流入も多い。退職した老夫婦や小さな子どもものいる家族が住むのに最適な静かな町といわれる。

※カナダ地図 (カナダ観光局 HP より)



カナダの教育

カナダの教育の特徴

国の政策である多文化教育→多文化が共生する社会、お互いの歴史や文化を認め、尊重し合う積極的な人権教育→平等、ジェンダー、人種問題など。人権委員や専門教員の配置。

教育は州の管轄と責任

憲法に教育管轄権は独占的事項と決められており、連邦全体の教育制度はなく、各州ごとに固有の地域性、歴史、文化を反映した教育制度がある。

選挙で選ばれた大臣を長とする州教育省が基準設定やカリキュラム決定、補助金の交付、免許の発行を行ない、地域の公選教育委員会が管理、予算決定、教員の雇用、独自カリキュラム作りなどを実施する。連邦政府は年間教育予算の5分の1以上を負担している。

小学校と中学・高校の教育機関

- | | | |
|---|-----------|--------------------------------------|
| { | ・ 公立学校 | 500万人、公的資金でまかなう。すべてのカナダ人に対して無償 |
| | ・ セパレート学校 | 幼稚園から中学・高校まで完全な宗派別教育、カトリック系、公立の1/4 |
| | ・ 私立学校 | 25万人の学生が在籍、宗教、言語、社会的地位、勉学レベルで多様な教育内容 |

義務教育は6ないし7歳～15ないし16歳まで
幼稚園（州によっては4歳で入園できる）

↓

小学校教育（6歳で入学）

↓

中等教育（日本の中学、高校に相当。ここまでは公的資金でまかなわれている。）

↓

中等後教育 {

・ 総合型大学（主に私立、教会連携、約100校、全日制50万人、定時制25万人）	}	（公立の教育機関、約200校、100万人が進学）
・ コミュニティカレッジ ・ 技術専門学校		

中等後教育の大半は有償だが、政府からの多額の助成金があり、学生の支払う授業料はかかる費用の11%に過ぎない。カナダの大学は授業内容と研究の質の高さによって国際的に知られている。

教育に対する信念

教育に対するカナダ人の信念は広く深く一般的に浸透しており多額の財政援助に反映されている。

高い教育水準→16歳以上の半数近くが何らかの中等後教育を受けている。「生涯学習」

多額の助成金や高水準教育投資の理由→国に健全な成果として見返りをもたらし続けているから良好な生活水準、発展の可能性、世界に開かれた教育。

カナダ・オンタリオ州「子ども家庭サービス法 (Child and Family Services Act) と子ども施策」について

州分権主義が進んでいるカナダでは、州が一つの政府とみなされるほど法律も独自に制定されている。そのため、カナダの社会保障・子どもに関する法律の体系は、州単位で連邦政府、市町村自治体との行政組織関係、財源や制度が相互に入り組み、非常に複雑になっている。日本のように、法律によって、国一都道府県一市区町村の縦割りの行政で運営され、財源が分担されるのではないので、比較することは大変難しく、容易に理解しにくい。今回のツアーにおいても、行政組織の役割や概要がつかめず苦労したところである。

子ども家庭福祉の先進州でもあり、訪問先であるトロント市とピーターボロ市のあるオンタリオ州についての子ども家庭福祉に関する法律と施策を報告する。

オンタリオ州の保健医療・教育、福祉サービス、ソーシャルサービスに関わる省は、コミュニティ・ソーシャル・サービス省 (Ministry of Community and Social Services)、保健省 (Ministry of Health)、教育省 (Ministry of Education)、司法省 (Ministry of the Attorney General)、市民権省 (Ministry of Citizenship)、などがあり、タテ割行政の弊害をなくすためオンタリオ州政府間関係省 (Ministry of Intergovernmental Affairs) がある。

1. 子ども家庭サービス法 (Child and Family Services Act, 1984)

(1) 経緯

オンタリオ州では、1984年に「児童福祉法 (Child Welfare Act)」が「子ども家庭サービス法 (Child and Family Services Act, 1984)」に改正になった。この法律は、児童福祉法を含む既存の10の児童福祉サービス関連諸法、(児童居住サービス法、児童精神保健サービス法、児童施設法など)を統合し一本化し、新たな理念を付加した総合立法である。16歳未満の子どもを対象にしている。1982年憲法の「権利および自由に関するカナダ憲章 (Canadian Charts of Rights and Freedoms)」にも合致する。

1960年代以降、子ども家庭福祉プログラムの理念が大きく変わり、施設入所中心からコミュニティ・ベース・ケア、子ども家庭を中心にサービスを転換した。80年代には、里親の不足や子どもが里親間を転々とするなどの問題が起こり、「子どもにとって最善の場所は生来の自分の家庭にある」という考え方が広まった。子ども家庭サービス・プログラムが推進され、家庭支援 (family support)、サービスを積極的に届けるプログラム (community outreach program)、ホームビルダー・プログラム (home builder program) 等が強化された。

現在では、子どもに第一の焦点をあて、それと同時に、家庭が予防サービスのターゲットとし、ファミリーサービスは、子どもと家庭を対象に、保護と予防が実施される。これは、子どもの保護を本格的に行ない、子どものウェルビーイング (well-being) を本格的にサポートするならば、その子どもが生活している環境の改善を図らねばならないという考え方に基づいている。

1990年に改正され、以下、改正法 (Child and Family Services Act, R.S.O. 1990) に基づいて述べる。

(2) 法の理念 (第1条)

まず、1989年に国連で採択された子どもの権利条約の内容を踏まえている。(カナダ政府は、1991年12月、第106番目の締約国として批准)

- ① 目的は、子どもの、最善の利益 (Promote Child's Best Interests)、保護 (Protection)、ウェルビーイング (Well-being) を促進することである。これらを最高目標として位置付ける。
- ② 親が子どもを養育するに際してはしばしば援助が必要であるが、その援助は、家族の単位の自律性と尊厳性を支援するものでなければならない。さらに、援助は、可能な限り、子ども、親間の相互の同意に基づいて提供されなければならない

- ③ 子どもまたは家族を援助するためには、取り得る方策の中で、もっとも制限が少なく、または、家族を崩壊に導く可能性のもっとも少ない方策がとられるべきである
 - ④ i 子どもにとってのケアの一貫性と安定した家族関係を求める子どものニーズを尊重する。ii それぞれの子どもの身体的、精神的発達の違いを充分考慮する。そのようにサービスを提供しなければならない
 - ⑤ 文化的、宗教的および地域的差異を可能な限り配慮してサービスを提供しなければならない
 - ⑥ インディアン、先住民の子ども、家族に対しては、可能な限りその文化的、先祖から受け継いだもの(heritage)、伝統、そして大家族の概念を承認するような方法でサービスを提供しなければならない
- (3) 子どもの権利の規定 (第 5 章第 99 条-111 条)
- ① 罰を受けない権利
 - ② 宗教教育を受ける権利
 - ③ 自分のケア計画の作成・修正に参加する権利
 - ④ 良質の食事および衣服への権利、医療的および歯科のケアを受ける権利
 - ⑤ 教育およびリクリエーション活動への権利
 - ⑥ 法律に基づくあらゆる手続きの権利についての情報を提供される権利
- などがあり、詳細に規定されている。また、同様にマルチカルチャリズム(multiculturalism,多様文化主義)についても規定されている。

2. 子ども家庭サービス法に基づく各種サービスについて

(1) インケアにある子どもの権利 (第 13 条)

①子どもが親元を離れて子ども保護援助協会 (Children's Aid Society=CAS)」等のケアを受ける時の規定となっている。

(CAS は日本の児童相談所のようなものだが、主に虐待に関して、16 歳以下の子どもについて、子どもへの不適切な関わりが子どもなどからの申し立てを受けた際に調査をし、子どもを保護したり、家庭へのカウンセリング等を行ない、法に基づいた活動をしている。)

②インケアにある子どもは、不服申し立て、審査請求、再審査請求、裁判所による再審査等ができる制度

(2) 子どもの権利擁護サービス

法第 102 条に規定されており、アドボカシー事務所が民間・公設で設置されている。

①サービス省が提供するサービスに関する子どもとその家族のためのアドボカシー活動(苦情処理、不服申し立ての受付、人権侵害の救済、権利の調整)を行なう。協定により州立の寄宿舎制学校、少年刑務所、非行少年の施設においても活動している。

など、多様なサービス・施策が重層的に制度・規定がなされている。

その他、多様なサービスが多様な事業主体で行なわれているが、根拠法として非常に重要な法であることが明らかである

参考資料

- * 「カナダ・オンタリオ州における子どもの権利保障」許斐 有『社会問題研究 48 巻 2 号、99 年 3 月』
- * 「先進諸国の社会保障 3 カナダ」東京大学出版会 (第 15 章 子ども家庭福祉 高橋重宏著)

カナダの多文化主義とNPO

今回のツアーを企画するに当たって、参考図書として紹介されたものの一つに『サラダボウルの国カナダ』（ひとなる書房）があります。サラダボウルの国という意味は、「人種のるつぼ」と表現されるように全体を溶かして混ぜ合わせてしまうのではなく、レタスはレタス、トマトはトマトとして生かされるという意味だそうです。つまり、それだけ一人ひとりの人権が尊重され、様々な生き方を認めあうということです。この考え方は多文化主義（multiculturalism）というもので、多様な文化をもつ人々を、ひとつの主流文化に同化させるのではなく、それぞれの文化を保ったまま社会の一員にするとということです。その背景には、カナダ・インディアンやイヌイトなどの先住民族や英語系と仏語系の住民を抱えているというカナダ独特の事情があります。

人道主義から生まれる様々な施策

カナダ連邦政府が多文化主義をとるようになったのは1970年近くになってからです。60年代に発生した人種差別に反対する暴動や独立運動がきっかけとなり、69年にはフランス語と英語の2つともが公用語となりました。そして71年から多文化政策に転換し、移住者支援ネットワークや市民支援組織などを助成するための小規模な補助金プログラムが創設されました。NPO支援の始まりと言えます。子育て支援の施策も70年代後半から考えられるようになりました。77年に「カナダ人権法」で人種、出自、皮膚の色、宗教、性別による差別を禁止し、82年には多文化主義と平等権がカナダ憲法の「権利と自由の章典」に明文化されます。そして1988年に連邦政府が多文化法を制定しました。

その結果、カナダは人道主義と国際貢献を重視している国として知られるようになりました。世界で難民が発生するたびに、多数の難民をカナダは受入れています。子育て支援の様々なプログラムができあがっているのは、このような国情があったからではないでしょうか。

NPOへの補助金交付の仕組み

今回視察した先もNPOばかりでしたが、社会サービスをNPOが提供することはカナダなどでは一般的です。州や市の他に、連邦政府も独自に補助金をもっています。また、United WayなどのようにNPOに資金を提供する団体もあります。補助を受けてサービスを実施するのはNPOです。このように、政府や財団が資金提供者、NGOやそれに関わるボランティアがサービスを実施する主体という関係がカナダではごく当たり前になっています。

補助金の交付の仕組みは、計画→補助金交付要綱決定→補助申請と決定→事業実施→検査→次への改善というサイクルがきちっと守られ、補助の理念などすべてが文書で簡潔に示され、関連情報が市民に公開されています。補助金交付要綱を見ても、補助の理念や目標とする成果、補助対象の事業、可能な使途、申請書の様式や必要な添付書類などが詳細に定められており、もちろん、だれでも入手することができます。それに基づき、次のような流れで補助金は支出されています。

1. NPOからの要請や相談が日常的にあり、それによって、州政府の施策や補助金交付要綱が決まる。
2. 事業ごとの補助金交付要綱が作られ、公表され、募集がかけられる。
3. NPOが申請書を書いて政府に提出する。
4. 審査され、補助金交付団体が決定。最初に約8割程度が支払われ、中間検査の後に残額が支払われる。
5. 年度中に3~4回の検査がある。
6. 最後にNPOから報告があり、政府が検査する。

あわせて事業の評価がなされ、次の補助金交付要綱や多文化施策にフィードバックされ

ます。

ピーターボロでヒヤリングした際も、「たくさんの書類を提出しなければならない」「抜き打ちで検査にくる」という説明がありました。その代わり、非課税という優遇措置があります。

また、補助金申請書には何人にサービスするという成果目標値を具体的に書き、評価方法も予め決めておかなければなりません。補助政策の理念から始まって、目標、実施方法、評価方法までが補助申請の段階で明確にされ、補助をする側も受ける側も明確なビジョンとゴールを共有するようになっています。補助申請書に書く項目は次のようなことです。(BC州の場合)

1. NPO 自体の資格・適正さ：NPO の設立目的、NPO がサービスを提供する地理的範囲、NPO が州の団体法によって登録されていること、会計士による有効な会計監査を受けていること、地域の移住者支援のネットワークの一員であること、など。
2. 提供するサービスの目的、内容、提供方法、サービスを受ける住民の予定数
3. 社会のニーズの具体的な調査方法（どうしてそのサービスが必要と判断したか）
4. ターゲットにしている受益者の具体像
5. サービス提供に関わるスタッフ、ボランティア、協力団体、協力する専門家は誰か
6. サービスの広報方法
7. 提供するサービスの質と量についての評価方法
8. 提供するサービスが州の補助金交付要綱の目標とどう関連するか
9. 各スタッフの資格、経験、能力
10. 支出計画
11. 補助金を申請する NPO と連携する団体や個人の名前と連絡先
12. 州の要請に応じてその NPO を評価してくれる外部の人の名前と連絡先

補助金の検査

補助金の検査も成果に従って行なわれます。会計の検査は、年に一回 NPO の会計全体についてプロの会計士が検査し、適正かどうかチェックし報告されます。そのため、政府が補助金を検査する際は、会計の検査はあまりなく、補助対象事業の成果がどれだけあったかが主に検査されます。たとえば、1000 人にサービス するという申請に対して補助金が交付された場合は、サービスの質と量が満足できるものであったかが検査されます。1000 人と申請しておいて実際にはサービス対象者が 800 人になった場合などは問題になります。事業の成果は数値だけでは判断できません。そのため関係者のインタビューなども行なわれます。また、補助対象期間終了後の検査だけでなく、期間途中での実地検査も何度か行なわれます。

ボランティアの位置付け

日本では、ボランティアが無償であるべきか有償でもかまわないものかはっきりしていません。有償ボランティアという言葉もあるぐらいです。しかし、ボランティアが社会に根づいている北米では、ボランティアはすべて無償と考えられています。交通費などの実費弁償費が支払われることもあります。それさえない場合が普通です。その代わり、ボランティアは善意や社会改革の熱意を実現するという見えない対価を得ます。また、ボランティアをすると履歴書に書くことができ、それが就職に有利になるといった実益もあります。学校や大学の 課程の中にボランティアが含まれている場合があり、その場合はボランティアをしなければその課程を修了できません。社会全体でボランティアを評価する仕組みがあることが、ボランティアを盛んにしている要因 になっています。今回の視察でも、「理事はボランティア」という説明が何度がありました。

協同組合

カナダには「カナダ協同組合法 (CANADA COOPERATIVE ACT)」という、統一法が 98 年に制定されました。その法律のもとに農業・小売・保険・金融・サービス・食品加工・労働・森林・住宅・学校・葬儀・家事援助など、さまざまな分野の協同組合があり、96 年の調査によると、連邦全体で 8035 団体にのぼります。組合員の総数は約 1480 万人で、カナダの総人口の約 50%にあたります。子育ての分野では、父母達による託児所や保育園の協同組合が増加していて、438 の協同組合が 27533 人の子どもを預かっています。同じ非営利セクターとして、重要な役割を担っていると言えるでしょう。

(福島県のホームページより一部引用)

ファミリーヘルスプログラム Peterborough County City Health Unit

担当者 アン・キース、ベス・グッド 《保健婦》

〔組織の位置付け〕

ハンドシェイクのロゴマーク：地域にある組織とパートナーシップをとっている。
オンタリオ州政府・ 地方自治体 ピーターボロ市・郡の保健所
地方自治体の衛生局の管理下で、市・郡・州の各責任者が関わって管理している。
保健行政の規制・基準はオンタリオ州が設定している。

〔役割〕

市と郡に住むすべての住民に広域に健康・保健に対するサービスを提供している。

〔財源〕

オンタリオ州・地方自治体から年間予算 500 万 C\$

〔サービス内容〕

26 のプログラムとサービスを提供

予防注射・歯科検診・ガン予防・遺伝子学・麻薬・タバコの健康問題・栄養管理
伝染病・水の安全・下水道など

〔スタッフ〕

最高責任者 1 人 医療関係者

管理者 2 人

スーパーバイザー 6 人

スタッフ 100 人 保健婦 栄養士 看護婦 保健監査役のスペシャリスト
によってプログラムが運営されている

その他、保健推進活動にコミュニティワーカーも訪問事業に参加している

〔子ども・家族へのプログラムの紹介〕

1. 健康的な出産をむかえるためのプログラム
2. ヘルシーベイビー・ヘルシーチルドレンのプログラム
3. インファント・トドラーの発達プログラム
4. 児童の保健プログラム
5. その他のプログラム

1. 健康的な出産をむかえるための援助プログラム

- 妊娠前および出産前の健康に送るための社会資源の情報提供
 - ・ 栄養、葉酸補給・喫煙・運動・アルコール・ストレス管理
- 学校のカリキュラムにも情報を提供
- 展示やイベントに参加し情報提供と紹介をする
 - ・ 年 2 回開催のブライダルショーに参加、今後赤ちゃんが欲しい人にパンフレットを提供して、健康的な赤ちゃんが生まれるための情報収集の場にもなっている
 - ・ ハイスクールにも同様な情報を提供している
- 年 3 回の出産前のヘルスフェアを開催
 - ・ 22 の展示
 - ・ 専門家の相談が受けられる（母乳・喫煙・栄養・妊娠・児童の発達・家の安全・父親になること等）
- 妊娠している方でしかもリスクのある女性を対象としているプログラム

[リスクがあるかの定義] 教育レベルが低い、貧困層である、社会的支援がない

- ・「ベビーズファースト」ドロップイン広場プログラムの提供
(ファミリーリソースセンターと提携している)
- ・ファミリーリソースセンターのプログラムに栄養指導ができる保健婦を派遣し、情報提供、参加された方のアセスメントも行なうことができる
- ・インフォーマルな話し合いの中でお互いに妊娠・子育てなどの貴重な情報交換の場になる
- ・健康的な昼食の提供、経済的に困難な方には昼食券が提供される
- ・ピアサポート、同じ状況にいる他の人と話しができる場をつくる
- 10代(13~19歳)で妊娠された女性の出産前対象の夕食会
- ・6週間のプログラムで年4回実施(ファミリーリソースセンターと共催している)
- ・保健婦は出産前の教育指導、ファミリーリソースワーカーは夕食会の準備と話し合いの場の設定をする
- このプログラムの中では、病院、保健所、婦人保健ケアセンター、ファミリーリソースセンターで夫々が提供するサービスをすべて一緒にコーディネートしている
《パートナーシップの良い事例》
- ・病院で行なわれる、出産に関する教育指導(3クラス)
- ・出産前の病院では、妊娠している方の1:1のアセスメント
- ・医者をはじめコミュニティ機関のニュースレターの発行とフォーラムの会報を提供している

2. ヘルシーベイビー・ヘルシーチルドレンのプログラム

(家族に関して行なう予防的活動プログラム)

- 内容:6歳以下の子どもがいる家庭を訪問するプログラム
(スタッフ) 常勤保健婦 6人
常勤家庭訪問者 4人《子育てを専門とするコミュニティワーカー》
- すべての女性に関して例外なく診断を行なう
- ・出産前と出産後の方
- ・リスクの高い方(身体的、医療的、社会的、経済的、感情的)
- 病院から退院した母親への援助
- ・退院後48時間後に、保健婦から連絡がある
「もしよろしければ、保健婦が訪問しましょうか」
- ・新しく子どもが生まれる家庭や何らかの問題で欠点を抱えている家庭が克服するためのプログラム(義務付けがないボランティアなプログラム)
- ・ただし児童に関して福祉関係に不安がある場合、CASに連絡の義務がある
- ・ドアサイン「静かに親子が寝ているよ」
- 診断の結果、リスクがある場合は保健婦が再アセスメントを行なう
- さらに、コミュニティサービスの紹介と必要なサービスのコーディネートをする
- そして、家庭内サポートの派遣(ファミリーホームビジターは子育て知識と児童教育知識をもつ人)のスタート

3. インファント・トドラーの発達プログラム (Infant Toddler Development Program)

インファント(生後6週間~18ヶ月) トドラー(5ヶ月~2歳6ヶ月)

[目的] リスクのある児童《障害をもった》を対象にしたプログラム

[財源] オンタリオ州政府

[スタッフ] 常勤3人 児童発達の専門家・作業療法士

- ITDPプログラムは、知的遅れや障害を持った児童、何らかの遅れをもっている児童を対象

- ・ 早産・特別ニーズ（ダウン症，脳性麻痺など）・社会的，経済的な理由の児童
- ITDP の家族に提供するサービス
 - ・ 家庭訪問と相談
 - ・ 児童の発達と成長に関するアセスメント
 - ・ どのような遊びができるのか，なにをすれば成長が伸びるのか
 - ・ 家族への支援
 - ・ どのようなサービスが必要か紹介する
 - ・ 児童を取り巻く社会福祉機関のサービス全体のコーディネート
 - ・ 特別なニーズのある児童がケアを申し込む連絡組織機関のカード
- 親への教育とサポートプログラム (Nobody's Perfect)
- ダウン症候群の児童の家族へのサポートグループを用意する
- 地域のコミュニティの紹介
- 児童の発達に関する子育ての社会資源を紹介
- K I D S (Kawartha Infant Development series) ビデオの紹介

4. 児童の保健プログラム

[目的] 児童・青年の健康維持と推進をする

[スタッフ] 常勤保健婦 2.5 人

非常勤コミュニティワーカー 0.5 人

- ヘルスプロモーションプログラム
 - ・ コミュニティニーズの評価
 - ・ 一般住民の意識の教育《児童が健康であることが重要である》
 - ・ アドボカシーと政策
 - ・ リサーチと評価
 - コミュニケーションプランの作成（児童の健康を重視する活動）
 - ・ 対象者：妊娠中・インファント、トドラーのいる両親・医師・職場
 - ヘルスライン
 - ・ フリーダイヤルの電話相談《月曜～金曜日まで》
 - ・ 多くの質問は、看護婦が答える
 - ・ 相談内容
 - 児童の食事・予防注射、心臓病、アルコール、麻薬、喫煙の生活への影響など
 - 児童の健康に関して数多くの無料のリソースを提供
 - ・ 家庭内の安全チェックリストの配布
 - ・ 言語のセラピー 12 ヶ月の児童から対象
 - ・ 新しく父親になった人へのマニュアルパンフレット
 - 父親の参加を刺激させるような、画期的な取り組みである
 - ・ バックスリーピングのパンフレット
- * チャイルドヘルスの一環のプログラムに保健婦は積極的に取り組んでいる
- コミュニティプレゼンテーションとトレーニングを行う
 - ・ Care For Kids—**小学校に入る前の児童に対する性的ヘルスと虐待防止**
 - ・ Nobody's Perfect の支援
 - ・ 授乳に関するサポート 1 歳まで母乳をすすめている
 - やさしい職場づくりの推進
 - ・ 環境がやさしければ、子どもや家族が重視される社会になる
 - ・ 雇用者側と話し合いをすすめ、ワーカーのために良い職場を作るプログラム
 - ・ 育児休暇の後，母親が職場に戻るために，授乳に良い環境を作る《個別の部屋》
Breastfeeding-friendly いつでもどこでも授乳ができる環境を作るポスター
図書館、レストラン、医者のおフィス、ショッピングモール、公的施設など

- ・ コミュニティの中で、需要と供給のサービスのギャップがどこにあるか等検討し新しいプログラムを作成する
- ・ 母乳の代行《人工的なミルク》を使うことに反対する活動のサポート
- ・ 言語問題 できるだけ言葉が話せるように推進
- ・ 病院と協力して親子を対象にした家族サービスを提供
- 評価とリサーチの研究
 - ・ The First Nine Years : ピーターボロの子どもの健康プロフィール
児童の健康に関わる様々な統計、資料を保健婦が冊子化する
児童の健康がベストになるかの事例が盛り込まれている
 - 出産後の気分がうつ状態になる《マタニティブルー》リサーチプロジェクト
どのような女性がリスクを抱えるのか・治療の研究
研究パートナー（大学、病院、婦人健康センター、ファミリーリソースセンター）
すべての女性は、出産前に診断を受け、出産後 48 時間、3 週間、2 ヶ月、6 ヶ月後にも診断を受ける
診断方法：簡単なチェックリストに基づき精神・身体状況を把握する
リスクがあると判断された場合、治療のオプションをすすめる
（具体的なオプション）
 - ①保健婦のフォローアップのアセスメント
 - ②親への支援・教育をファミリーリソースセンターが行なう
 - ③ファミリーホームビジターによる家庭内支援
 - ④ソーシャルワーカーによるグループカウンセリング
 - ⑤心理学者による個別カウンセリング
 このプロジェクトにおける④⑤について無料で提供している
過去には、この治療に対して①薬②病院の 2 つの選択しかなかった
- Shared Services
 - ・ 保健所のパートナー：病院、婦人保健センター、ファミリーリソースセンター
 - ・ 児童の出産にあたる教育クラス
 - ・ 病院で行われる出産前のクリニック
 - ・ 授乳に関するクリニックは、婦人保健センターで行なう
授乳専門スペシャリストと看護婦を派遣している
 - ・ 保健婦による授乳に関する相談 電話、訪問、保健所で行なう

5. その他の支援プログラム

- 若い人へのプログラム
 - ・ 性的問題に関する健康管理 小学校、高校およびコミュニティでの性教育
 - ・ クリニックでは、避妊・伝染病・援助交際による病気に関しての情報や診断
 - ・ 麻薬使用・タバコ使用予防プログラム
 - ・ 事故が起きないための予防プログラム ホームセイフティー
 - ・ 運動活動の促進

質疑応答

- Q：10代の子ども達へのプログラムがありますが、カナダでの若い人の妊娠率とリスクのある家庭がどのくらいあるのか
- A：サービス提供地域の人口 13 万人の中で、10代の親が出産する子どもは毎年 70 人ぐらいです。ピーターボロ郡年間の生児出産で 15 歳から 19 歳までの女性の出産率は 8%です(1995 年の統計)。人口が少なく年毎の変動が大きいので比率を申し上げるのが難しい。
- 最近の傾向では、全体の出生率は低下していますが、今年は少し上がったと聞いてい

ます。それに比較して 10 代の出生率は下がっています。

Q：このプログラムを受ける人の比率はどのくらいですか

A：ヘルシーベイビー・ヘルシーチルドレンとホームビジティングのプログラムを受けてスクリーニング(診断)を受ける率は、新しく母親になった人の 80%ですが、その後のフォローアップ率はわかりません。

Q：保育法で、このようなプログラムに参加するための母親・父親が容易に会社を休む体制はあるのか

A：カナダでは保育所は保育法で運営管理されています。母親・父親になると最高 53 週間まで職場を休むことができます。休業期間は失業保険または手当てを受けることができます。

いま新しい法律が成立すところですが、家族に伴うことで年間 10 日間無給で休むことができます。しかし低所得者の方は、生活が困ってしまうので無給で 10 日間も休むことができない、また 1 年間も育児休暇をとれないというのが現状です。

Parenting Center

● 経緯

81年にメアリー・ゴードンさんの呼びかけで、はじめは5つの学校の空き教室を利用して創設された「ひろば」「たまり場」である。カナダでは25年前から子どもにとって厳しい状況があり、小学校の教師をしていたメアリー・ゴードンさんが、いい親になるためのサポートをするために近所の母親やこれから母親になる人達に呼びかけて始めた。教育委員会も小さい時の脳の発達に環境が大きく影響することを認め、問題を解決する方法のひとつと捉えて、受け入れてくれた。

● 対象

0歳～6歳の子どもとその親が対象である。特に貧困層・移民などリスクをかかえる人たちのサポートとなっている。現在は約11000人(7000家族)が参加している。オンタリオ州だけでなく、カナダ連邦政府も興味を示していて、全国に広がっていく可能性がある。

● 目的

- ・高いリスクを抱えた人の支援、特に心のケアを行なう。リラックスする場であり、元気になる機会となる。
- ・赤ちゃんがどういう発達段階を踏むのかという情報を提供する。どういうことが普通の行為なのかを知らせることで、しつけの仕方や対応を間違えないようにさせる。(虐待などの防止)
- ・赤ちゃんが親が互いに共感し合う場とする。ダンスを踊るように、反応し合いながら調和をはかる場となる。
- ・学校の先生と家族が関わる事で互いの理解がすすみ、共感が養われて家庭と学校の連携をすすめる。
- ・親や子ども同士も知り合うことで人種差別などの差別感をなくす。
- ・子どもに障害があることの早期発見を行なう。

● スタッフ

専任のスタッフは、各ペアレンティングセンターに1人である。参加する親がおやつ・おもちゃや本の貸し出し・情報の管理・掃除・言葉のわからない人の通訳やフォローなど責任をもちながら、そのスタッフと共にセンターを運営している。スタッフが1人しかいなければ、はじめから期待もされず、手伝わざるを得ない気持ちになる。親達の力を発掘することにもなる。英語のわからない人が病院へ行くときなど、一緒についていてあげるなどの協力を、低所得であってもお互いにおこなっている。

● 費用・事業費

不明

● 内容

特別なプログラムは用意しないが、大変わかりやすいゲームや、母親が文字や言葉がわからなくても理解できる絵本を用意し、子どもと一緒に遊びながら子どもの読み書き計算の力を育て、親の育児力を高める場としている。遊びをとおして子どもの脳を刺激し発達を促すことが重要で、決して指導はしない。また、親自身が非常にリラックスできる環境の中で楽しみながら参加することが重要。ビデオで紹介されたエチオピアからの移民の女性は、かつては教師であり、夫も高い教育を受けた人であった。しかしカナダ

では低所得者で何らかの社会保障を受け、2部屋の小さなアパートで9人のこどもを育てていたが、このプログラムにより、英語を話すことができるようになり、友人もできて、主治医の紹介やアドボカシーの働きかけによって新しい家に引っ越しすることもできた。現在は幼稚園の助手をしている。

● **感想**

スタッフは一人で十分、母親の代わりをするのではなく、母親の力を引き出すことが重要。また、資金不足は大きな問題ではない。団体間の資源の共有こそが重要という言葉は、私たちが何をすればよいか、何ができるかの示唆を得たような気がする。

カナダ全土で活用されているリスクを抱えた親への支援プログラム Nobody's Perfect (誰もが完璧ではない)

1. このプログラムのできた背景

- 80年代に東部カナダ保健省で、社会的リスクの高い人(低所得・若い親・ひとり親・教育を受けていないなど)の子育て支援として始まった。児童の死因は無視や不注意によるものが多いという深刻な状況があり、サービスを必要とするリスクのある家族をフォローするために開発されたプログラムである。
- 94年には州の援助が終ることとなったが、親の要求が強かったため継続されることになった。
- 「親」「こころ」「からだ」「安全」「行動」という5冊のテキストが作成され、教材として使われてきたが、最近「父親」というテキストが加わった。カナダでも50年前からお金を稼ぐのは父親で、子育ては母親という性別役割分業がすすんだ。子育てに対する父親の影響について調査したところ、父親の参加は少なく、また「参加すればよかった」という意見も多く出された。そこで父親の参加を促し、父親の参加が子育てを成功させることをアピールするために付け加えられた。

2. 実施機関

- ピーターボロ郡では、ピーターボロ郡保健所(Peterborough County-City Health Unit)の健康局(The Board of Health)が責任を持って展開しているプログラムである。
- 保健所では26のプログラムとサービスをおこなっており、そのひとつである「子どもの健康 (Child Health)」の中に位置付けられ、親の教育と地域におけるグループのサポートをおこなうプログラムである。
- プログラムのスーパーバイザー(管理者)はAnn Keysで、業務を共に行なう看護婦のBeth Goodge、そしてサービスの受付や調整を行なうGail Chislettがスタッフである。
- このプログラムは州政府に属するものであり、担当者は州へ報告を行っている。

3. プログラムの概要

- 目的
親の教育や地域でのつながりを深めること、親支援のネットワークをつくることで、親子関係における事故を未然に防ぐためのプログラムである。何らかのリスクをかかえて子育てに必要な条件を欠いている家庭の子育てを支援し、子どもの初期の脳の発達の促進と健康的な環境づくりと、親の自己尊重を高め、就労の意欲やより良い人間関係、ライフスキルを身につけ貧困の解消につなげるプログラムでもある。
- 対象
0歳から5歳までの子どもを持ち、未成年、ひとり親、低所得、正式な教育を受けていない、社会的地理的に孤立した親などで、子ども保護援助協会(CAS)や家庭裁判所から紹介されるかあるいは、友人からの口コミによって本人が電話で直接参加を申し込む場合がある。
- 場所
地元の高校、教会、リソースセンター、コミュニティーリレーションセンターなど参加者の身近なところで行われる。

- 参加費
テキスト、食事、タクシーによる送迎などすべて無料。ただし、州によってシステムは違っている。
- テキスト
「親」「こころ」「からだ」「安全」「行動」の5冊のほか「父親」が新しく作成された。
- スタッフ
プログラムへの参加経験のある親と保健所の職員（保健婦）の2人のファシリテーターが一組となって、プログラムへの親の参加を促し、親同士の相互援助を可能にし、親が自立的な力をつけ、よりよい子育てや生活ができるよう支援する。ファシリテーターは保健所が行なう研修を受けなければならない。最近では聴覚障害者のための手話のできるファシリテーターや父親対象プログラムのための男性のファシリテーターも誕生している。ピーターボロでは52人のファシリテーターが登録されていて、その中の17人は親(参加者)によるボランティアで、プロのファシリテーターとペアで進行役を行なう。
- 内容
 - ・ 親同士がひとつのグループとなりグループディスカッションを行なう。
 - ・ 2時間のセッションを6~8回
 - ・ 各グループは大体12人の親で形成される。グループのメンバーはずっと同じ。プライベートな付き合いにも発展する場合もある。虐待を受けている人を助けたという例もある。
 - ・ 講座の間は子どもを預けることができる。子どもが親から離れたがらない場合は、一緒に参加してもよい。
- 父親が子育てに参加することは子どもの自尊心を育て、学校でも成功できるという調査結果があるが、関わりが少ないのが現状である。そこで、父親のためのグループがつけられている。男性はグループに入ることや、そこで意見を言い合うことを嫌がる傾向があり、特に最初の5回はファシリテーターが連絡をとって参加を促している。自分が抱えている問題を明らかにするのも、女性に比べて難しい為、ディスカッションの進行も配慮しなければならない。
- スタッフは参加者の追跡調査も行ないながらプログラムについて評価している。サービスを受けた家族についての報告を毎月提出する。
- 予算
各グループの1シリーズが年間で3500C\$
そのうち2300C\$分は関係機関から、人的援助、場所の提供というかたちで援助される。残りの1200C\$の内訳は、ボランティア（親のファシリテーター）の person fee 20C\$、おやつ代18C\$、テキスト（5冊15C\$、父親用7C\$）交通費400C\$など。1200C\$×15グループ=18000C\$が自治体からの支援。これは児童が施設に入った場合や専門家によるサービス、虐待が起こってしまったからのコストに比べれば高くない。

4. グループディスカッションの組み立て

通常 10 人~12 人で 1 グループを形成する。1 回のセッションは 2 時間。
セッションを指導するファシリテーター 2 名がグループ討議の牽引役を担う。
ここではデモンストレーションで実演した内容を紹介する。

- 自己紹介…アイスブレイカーゲーム
プログラムに参加するメンバーがリラックスしてお互いを知るきっかけに行なうゲーム。誰でも参加しやすい形を工夫している。
私たちが見せてもらったのは、全員で輪になり紙で作ったボールをパスしていく。ボールには「大好物は?」「何色が好き?」「どの季節が好き?」など誰でも答えやすい質問が貼ってある。ボールを投げ、受け止めた人が自分の正面にある質問に答える。まだ答えていない人にパスしていく。
 - 約束事の確認
初回に皆で約束事を決める。約束事は紙に大きく書き出し毎回討議の初めに指導員が読み上げる。
 - ・自由に話しましょう
 - ・あるテーマ、ディスカッションで話したくない人がいたら参加しなくても結構です
 - ・万が一児童虐待がある場合、自分が受けていることがあればこの場で明らかにしましょうなど。
 - グループディスカッション
 - ①先週を振り返って子どもにとって良かったと思うことを 2 人組みになって話した後、発表しあう。2 人組みはカードを引いて、ペアを組む。
 - ・スイミングスクールに通いだしてやっと英語を覚え始めた。今は先住民の言葉と英語を半分ずつ話すようになった
 - ・6 歳の子どもが始めて馬に乗りました
 - ・16 歳の息子がディナーの用意をしてくれたなど
 - ②その日のテーマに沿って意見を出す
「怒り」について
「あなたのお子さんはいつ、どんな時に怒りますか?」とファシリテーターが質問し、それぞれ紙に書くよう促す。
- ★指導員は独自の目標を持ってプログラムを進める。親がどこに問題を抱えているか把握しようとする。
- i. 怒るということがなぜ起こったかの知識、どういうことかを理解する
 - ii. 怒らないためにどうすればいいのか知識を身に付ける
 - iii. 怒ってしまった時にどのようなスキルを身に付けてどのように対応するか覚えてもらう
- ③子どもはどんな時かんしゃくを起こすか発表し合う。
 - ④その対応方法を考える。ディスカッションしながらいいと思われる方法を見つける。ファシリテーターがコメントや事例を示しながら、子どもに対する対処の仕方を話しあう。

- ・お腹が空いている時 → 少しスナックを与える
- ・疲れている時 → ソファに座ってもらう
- ・疲れて8時を過ぎている時 → 必ず同じ時間に寝かせるようにする
- ・子どもがフラストレーションを感じる → 大きな仕事を与えている可能性がある仕事は分けて与える

⑤子どもがかんしゃくを起こして一番大変だった時のことを出し合う。

- ・スーパーで「おもちゃが欲しい」と大騒ぎ
- ひとつの事例を題材にしロールプレイングを行なう。母親役子ども役を決めて再現。これを見てどう対応することが適切かそれぞれ自分の意見を出し合う。更にテキストを全員で読みあい子どもの気持ちや親のその場の心理についても考える。さらに討議を深めていく。

⑥休憩

セッション開始から約1時間経ったところで軽い食事などを食べる。軽食はプログラムの中でも重要な要素である。食材やその食べ方の知識となる。また、低所得の人にとっては大事な栄養源となる。主催者が用意する。無料で提供される。

⑦ディスカッションの再開

休憩前の話し合いを踏まえて、最適な時間・空間を作るためにどうしたらいいか話し合う。

⑧評価

感情を表した顔のイラストカードが40種類以上用意してある。参加者はその中から自分の気持ちに近い表情のカードを選びその理由を発表していく。子どもに期待しすぎるということについて考えたことがあるかなど話し合う。

最後に参加者全員に今日の気分と感想を書き込む用紙を渡し記入してもらう。用紙には5つの表情を表したイラストが描かれている。その日の気分に近い表情を選ぶようになっている。

宿題として、今日話し合ったことを実践してみて次回意見交換することを確認。セッション終了時には全体の感想を聞き取るアンケートを行なう。

5. 感想

- ・アイスブレイクゲームに参加したり、デモンストレーションを見られたことが収穫
- ・参加型ワークショップの手法をうまく取り入れている。
- ・参加者同士の話し合いの中で問題が解決していくこともあるという点が良い。
- ・ファシリテーター役が重要でプログラムの鍵を握っていると感じた。
- ・低所得、リスクのある家庭の自立支援に徹しているという点は新しい気づきだった。

夫の暴力から逃れて息子と二人でピーターボロに避難したというルーシさんの話が印象的でした。何もないゼロからのスタート、この支援を受け、職にもつき、収入も得、人生の目標もできカレッジにも通い始めた。そして今はこのプログラムにファシリテーターとして参加しながら自分が母親たちを支援する側にまわろうとしている。「こんな生活ができると誰が想像したでしょう。」と淡々と話す彼女の姿に本当の自立支援の意味を教えられた気がした。

Roots of Empathy (共感教育)

● 経緯

このプログラムはメアリー・ゴードンさんがメイツリー財団の資金提供を受け、次世代の育児能力を育てるプログラムとして1996年に開発した。1996年トロント教育委員会で2つの学校、8家族の協力で始められた。トロントの公立学校で2年間公的評価のためのプログラムが続けられた。事前事後評価のデータ分析では明らかに子どもたちの共感性が大きく変化している事が示された。現在多くの学校がこのプログラムを採用している。さらに、このプログラムに対する関心はカナダ国内に留まらず世界各国から注目されプログラムを学ぶ人がカナダを訪れている。

● 対象

幼稚園～中学2年生

4つのレベル（4歳～6歳、1年生～3年生、4年生～5年生、6年生～中学2年生）

● 目的

共感を学習すること。クラスにはファシリテーターと共に地域に住む赤ちゃんとその親が通うことになる。母親と赤ちゃんの間に生まれる愛情、この“愛情”をクラスの中に移すことをねらいとし、赤ちゃんの姿を通して一人ひとりの子どもに他人に対する共感を伝えようとしている。

赤ちゃんの感情を観察することにより自分の感情を言葉に表し確認する。さらに他人への共感を養っていくことを目的としている。このプログラムは“社会の中で一番貴重なもの、一番大切なものは家族だ”との信念に基づいてつくられており、お互いの親切な気持ちを養うことで将来的にいい市民を育てることを目指している。

● 非営利事業

● スタッフ養成

子育てセンターなどで親子関係に従事した経験のあるスタッフが講習を受けファシリテーターとなる。

● 内容

授業は全27回＝毎月3回×9回

授業は1年間に9つのテーマで進められていく。月に3回の授業が行なわれる。3回のうち1回は赤ちゃんが親がクラスに通ってくる。生徒は約1年間にわたり赤ちゃんの発達と親子関係を観察することとなる。9つのテーマは赤ちゃんの成長に合わせてつくられている。しかしその内容はその場での赤ちゃんが親とのコミュニケーションが教材として優先される。赤ちゃんが訪問する前に1回と訪問後に1回感情について考える授業を行なう。

授業はファシリテーターとクラス担任が協力して進める。赤ちゃんは毎月の訪問のたびに成長が見られる。物をつかむ、歯がはえる、何を食べるようになったかなど赤ちゃんの成長そのものが子どもたちにとっての教材となる。

このプログラムは教育委員会により学校に紹介されている。学校からの要望で開催されるが、実際に実施する学校・クラスは、プログラムが1年を通して行なわれるため継続が可能なこと、さらにその後もその理念を継承していくことができるかなどを見極めたうえで決められている。

プログラムを実施する地域で協力家庭を探す。赤ちゃんはプログラム開始時に2～4ヶ月

目であることが理想。ファシリテーターが親子と学校をつなぐようコーディネートする。赤ちゃんは保健婦・病院に紹介を依頼し探す。または学校内の情報から選ばれる。

生徒たちは赤ちゃんの感情を自分達で発見することにより自分の感情を理解していく。これは自分を肯定的に捉えることにとっても役立つ。また親子関係を目の当たりにすることで親の愛情や責任感も学ぶこととなる。情緒的な面を学ぶ。しかし、これだけではなく絵の描き方、工作、数学の学習を取り入れて学習することもある。クリエイティブな部分を取り入れてファシリテーターとクラス担任の工夫が生かされた授業が行なわれている。

- **授業にかかる経費** このプログラムを行なう一人の担当指導員を雇うための年間3500C\$（約30万円）で足りる

- **メアリーゴードン氏から私たちへの提言**

Q.「日本の状況を愁いている私たちは、まず何から始めたら良いでしょうか？」

A. 必要なことは公立の学校でこのようなプログラムを紹介することだと思います。比較的小さな投資で大きな変化が起こるのではないのでしょうか？なぜなら、一般の多くの子どもたちがこのプログラムに参加することで教職員、教育委員会の関係者、家族の方々、地域社会に携わるすべての方々にプログラムの内容を知っていただけるからです。日本で具体的にどのようにすればこのルーツ・オブ・エンパシーが有効に行なえるか、私も考えているところですが、皆さんが日本に帰られてご自分の地域社会の中でこのプログラムを紹介していただき、一番興味を示したところから始めていくというのはどうでしょうか？最初に地元の関心というところが大切だと思いますので、連絡をいただければどのようにアポイントを取れば良いか動きを作ります。2002年11月にも日本を訪れ、講演をしますので、その時にも皆さんのお役に立てればと思います。日本にもこのプログラムを広めるために是非私の力を貸したいと思っていますので今後も連絡を下さい。何かを変えたい！という時にはその問題に直面している人達がそれを変えていくことというのが一番有効だと思います。

- **感想**

日本での講演を伺ってから1ヶ月、再びお会いできた嬉しさと彼女のオーラに包まれて感動のひとときでした。一言一言に諭されるように話される言葉の一つ一つが胸に刻み込まれました。「家族の絆、家族の力は社会の中で一番強いもの」「母親が変化の原動力になる。母親としてのその熱心な気持ちを絶対に忘れてはならない。」そして、日本にこのプログラムを広めるために私は力を貸したい、協力を惜しまないとおっしゃっていただけことが何よりも嬉しいことでした。

Peterborough Family YMCA Childcare Centre

施設・活動・特徴

開園日：月一金 保育時間：7時30分～5時30分（土、休日除く）
主施設：2階建て、同じ年齢の子どもと遊ばせるのに色々な活動ステーションがある。
食 事：給食とおやつ2回
経営母体は Chief Executive officer と Board of Director が保育プログラムを監督している。社会福祉事業省の認可を受け、年1回の査察がある 運営費は年間15万C\$

親の意見を聞く諮問委員会（Parent Advisory Committee）があり月1回開催している。子どものクリエイティブな表現と社会的な発達を助長することはもちろん信頼と自己尊重のなかで育てられていくことを目標としていて、スペシャルニーズにも対応している。親とは毎日コミュニケーションをとっている。

保育所の特徴は、長年子どものケアと発達に関わってきたが、スタッフはあたたかく、愛情と活気のある環境で可能な限りよいケアを提供すること。保育理念は、子どもが持つ探求心や社会性を満足させることによって、子どもに自分を取り巻く世界への関心を高めさせること。

聞き取り内容

定員 18ヶ月～5歳40名（2名15ヶ月～18ヶ月可能）
保育料 Toddlers 29C\$/1日
Preschoolers 27C\$/1日
School-Age 登校前4C\$/1日 放課後9C\$/1日 登校前、放課後13C\$/1日
一日中27C\$/1日
公的補助はある
親の背景（職業・家庭事情・入所判定条件）
子どもは1人以上、2人通っている家庭もある
YMCA、政府の職員、教師、事務職、看護婦、学生
YMCAの使命によりどんな境遇でも受け入れている
入園に際して働いていることは条件とならない
休日 Christmasday, Boxingday（12月26日）, NewYear's Day, GoodFriday,
ThanksgivingDay, VictoriaDay, CanadaDay, CivicHoliday, LabourDay
年間行事 Family Swims 春と秋年2回
Mather's Day 5月
Father's Day 6月
Christmas Party 12月
Family Potluck BBQ 7月
FieldTrip 年3回
週案 スタッフが好きなテーマを選んで作成する。
工作、外遊び、ドラマティックプレイを各クラスで時間調整する（全員が同時に部屋の中で活動できないため）
体力と想像力を養うことを目的とする。
スタッフ、パートタイムの数、ボランティアがいるとしたらその関わり方、常勤スタッフ

の給料／月

幼児教育の専門分野を卒業したスタッフとアシスタント、常勤3名
パート4名
ボランティアはアシスタントとして参加
資格のない補助者もいる サンファードフレミング大学の学生が研修
平均月収 500C\$ - 800C\$

児童数と保育者との数	15ヶ月-2.5歳	1:5
	2.5歳-4歳	1:8
	3.8歳-5歳	1:10
	5歳-12歳	1:15

親の育児休暇 収入の保証1年 財政のサポートは可能

今後の課題と方向性 地域社会の仲間とともに働くこと、そうすれば子どもと家庭のニーズに応ずることができもっと認可された保育場所ができること。

【全員の感想から】

ここを見学して、日本の保育園のレベルもかなりなものだと感じた。

子どものいない日だから全員が同時に入れたが、残念。(2名)

同じ年齢の子どもたちで遊ぶだけでいいのかしら？

建物内が雑然としていた (3名)

日本の幼稚園のよう (4名)

活動ステーションがあるのがよい、部屋を隔てていないのがよい、子どもたちの作品が飾ってあるのがよい (2名)

プログラムがしっかりしている、10分から30分きざみのプログラムすごい (2名)

アレルギー対策は大変そう

感触を大事にする、行動を刺激するおもちゃを与える工夫が見られる (3名)

保育料が高い

保育料支払いにカードが使用できるのに驚いた

All Seasons Learning Centre

説明者 園長、園長の娘2人（常勤スタッフ）

施設・活動・特徴

施設：ピーターボロ市街地近くの住宅地にある一戸建て住宅を改築した2階建て、1Fデイケアサービス（日本でいう保育園）、厨房施設、2Fアフタースクール（日本でいう学童保育）になっている。古タイヤをリサイクルして敷き詰めた園庭あり

避難訓練1回/月

7:30-5:30 開園

活動：運営はオンタリオ州の認可を受け（毎年10月に更新する）、NPOとし州政府補助金4万C\$/年 保育料、募金などでまかなわれる。ボランティアで構成された理事会で予算、経営を中心に話し合われる。園長は、アシスタントスーパーバイザーとしてスタッフのスケジュール管理し現場はやらない。看護婦はいないが、病児保育対応もしている。給食あり、おやつ2回。

特徴：「2番目の家庭」として、家庭的なケアを目標とし、スクールエイジに対しては学習プログラムをもっている。ブッククラブの本を園がとりまとめて注文し、家庭に頒布、一定パーセンテージの無料の本を得ている。

聞き取り内容

児童総数：8週の幼児から10歳まで42名（幼稚園が、毎日で半日保育から週3日で1日に変更になり2日間のデイサービスに来る子どもも含む）

待機児：4-5人 少ない理由は、家庭で1人の保育者が5人を保育する制度を利用しているから

- ・保育料 インファント（8週-15ヶ月）33C\$/日
トドラー（18ヶ月-2歳半）29C\$/日
フリースクール（3歳-5歳）28C\$/日、21C\$/半日
アフタースクール（6歳-10歳）29C\$/日

収入に応じ政府から補助（場合によっては、100%の補助もある）はあるが、補助の条件は2年前の法改正により2週間以内の就業。15分の延長が認められるが、その場合1分1C\$

- ・親の状況 学生が多い（60%-65%はシングル）
- ・休日 クリスマス（1週間）、イースター（4日間）、カナダデー（1日間）
- ・イベント 金曜日午後5時-7時寄付金を集めるためのイベント開催
- ・スタッフ数、給料/月

オンタリオ州の地域社会サービス省のライセンス資格者、常勤10名7時間労働（1名調理員午前のみ） 平均月収1200C\$-1400C\$

親の育児休暇：両親合算で1年間 収入の保証：給与の60%政府が保証している。

今後の課題：ここの施設以外で、夏期スクールエイジのプログラムの実施。

（ツアー参加者の感想より）

「第2の家庭」を目標にしているだけあって、アットホームな雰囲気でした（11名）
迷路のような家が、施設として認められているのが日本では考えられないことであるが、子どもにとってはワクワクすることでしょう（2名）

飾り付けもセンスがよく、こころがウキウキする色使いでした（3名）

絵本の購入のやり方も良い（2名）

リスクを持った人が6割というカナダの事情は日本と違いますが、プログラムをしっかりとって申請すれば、補助金が受けられ、その後の抜き打ちの監査はあるものの自由に運営できるのは羨ましいと思います

学童とのドッキングが素晴らしい（3名）

Family Resource Centre

説明者 ナンシー ドルティ、ヘレン パーティンス

<組織> オンタリオ州 NPO 子育て支援事業

理事会、執行委員会、プログラム諮問委員会（有識者のボランティア）執行ディレクターの元で幼児教育学を学んだスタッフ6名、ソーシャルワーカー1名がドロップイン・アウトリーチチーム、リソースサービスチーム、ブライターフューチャーターボロチームのリーダーまた事務局長として活動している。幼児教育学を学ぶ学生、ブライターフューチャーコース経験者がボランティアとして参加したり、親達が意見をいえる場や適正な活動が行われているかを調査する機関もある。必要に応じて保健婦、言語療法士などが他の機関からもこの活動に参加する。

<財源> カナダ連邦政府基金・ピーターボロ市基金・ユナイテッドウェイ基金の他若干の寄付金

<施設> 1階：ドロップイン・おもちゃ図書館・戸外遊び場

2階：各セクション事務室

コンピューターで行政、関係機関と連絡

ホームページを開設し、相談業務に活用している

<活動> ピーターボロ市及び郡の0歳～12歳の子ども、親、養育者、保育ママへの支援、情報提供、学習活動

○ドロップイン：センター 3日/週

ピーターボロスクエア 2日/週

0歳～12歳の子供とその親、祖父母、保育ママ達が利用。いつ来てもいつ帰っても良い「広場」のような所で、遊びにきた子供達は子供同士でいろいろな遊びを経験でき、親達もスタッフや他の親達とおしゃべりしたり、相談にのってもらったりできる。広い部屋が低い家具で仕切られ、機能的に、それでいて家庭的で暖かいリラックスできる空間となっている。

- ・ダイニングキッチン…自由にキッチンを使うことができ、持参のおやつや昼食が食べられるようになっている。
- ・大人のスペース…ソファが置かれ、親同士子どもを遊ばせながらゆっくりおしゃべりができる。
- ・子供のスペース…大型遊具で全身を使った遊びができたり、ままごと、お絵かき、パズル、砂遊び、粘土遊びをしたり、静かに絵本を読むコーナーもある。戸外にも大型遊具があり、全身遊びができる。
- ・資料エリア…保育情報、子どもに関する情報機関や団体のお知らせ、地域の様々なグループのチラシ・パンフレット等がおかれている。

○おもちゃ図書館：本・おもちゃ図書館（会員制・年会費25\$。低所得者無料）

会員になると本・おもちゃを4週間借りることができる。室内スベリ台、乗り物、パズル、おままごと、シーソーなど種類は豊富。子供の年齢や発達に合わせたおもちゃ選びの相談にのってもらえる。子育てに関する本やビデオテープの貸し出しもある。

○アウトリーチ：遠隔地に住んでいてセンターに来られない親子のためセンターから車におもちゃや親向けの情報パンフレットなどを積み、教会や公民館などでドロップイン、おもちゃ図書館を開いている。ベビーウェルネス事業もある。

郡13カ所、市内3ヶ所を巡回している。

○保育支援：親の通院や休養のため個人宅へ出向き、保育する。

- 学習活動：
 - ・子供の発達や接し方など子育てについての学び。（「赤ちゃん和我」「あなたの赤ちゃんを楽しもう」「クリスマスクラフトアイデア」「良い訓練・良い子供」「ノーバディパーフェクト」etc.）
 - ・保育ママを対象とした情報提供・研修
 - ・マタニティーブルーになった母親への援助
スタッフが相談にのる。マタニティーブルーの人対象の学習会など
- 不用品交換（子どもの衣類・育児用品）
- 子育て電話相談
- ニュースレターの発行 4回/年
- ブライターフューチャーピーターボロ：カナダ連邦政府保健省による予防的事業
0歳～6歳までのリスク（貧困層、社会的に孤立している1人親や若年の親）がある子供達への支援サービス。
 - ・ベビーズファースト…参加費無料。
妊娠中の母親への栄養指導と健康的な昼食の提供、食料支給（低体重児を生む事を防ぐため・経済困窮者にはクーポン券支給）。マタニティウェアやベビー服の交換。親同士の出会いの場。様々なリソースサービスを利用できる。
 - ・ベビーウェルネス…妊婦と6歳までの幼児対象。出産前後の婦人の健康管理。
母乳栄養：「母親から母親」（母乳栄養援助ネットワーク）
出産～8週間、赤ちゃんのためにボランティアが母乳栄養推進のため援助する。電話相談もある。
育児（食事・安全・健康）
「エンジョイング ユア ベイビー」出生～9ヶ月 6週間コース。
看護婦や専門化がベビーマッサージの仕方、遊びを通して赤ちゃんが学ぶこと、安全な子育て、健康的な子供の発達、どのようにして他の親達と出会うかなど、指導・アドバイスをする。
 - ・ステップアンドステージ…両親と18ヶ月までの幼児（無料だが要紹介者）
赤ちゃんの世話の仕方、安全な子育て、健康的な発育、赤ちゃんに何を食べさせるかなどを学ぶ。子供たちに遊びとおもちゃ、健康的なおやつ提供、ベビー服交換、このプログラムに参加する為の送迎、健康的な子供を育てる為の話し合いやインフォメーション。
 - ・10代で妊娠した女性…6週間のプログラム。4回/年。
保健婦による出産前の教育指導。出産前の女性対象の食事会。料理指導。
 - ・ネイバーフッド・アウトリーチ…協同家庭菜園、共同購入、コレクティブキッチン（お金を持ち寄って食料を共同購入し、共同で調理して食べる活動）、子供達の為の安全な遊び場の提供、家族おたのしみ会などの開催し、家庭を支援し、地域を作り上げる働きをしている。
- 自助グループたちあげ援助…孫の養育をしている祖父母のグループ、死産経験者のグループなど、共通の経験や心配事を持った人々が集まり、情報交換し、問題解決の助け合いをするグループを援助している。
- ネットワークのたちあげやプレイグループのたちあげなども積極的に援助し、おもちゃの貸し出し、遊び場の提供や支援者などを送っている。

<感想>

閑静な住宅街にあるセンターに2歳位の坊やを抱いたお父さん、おやつ持参のお母さんと子供達、保育ママさんも子供達と一緒に集まってくる。中に入るとそこは大きな家という感じでおやつを食べたり、おもちゃで遊んだり、楽しそうな親子の姿が見られた。子供が

遊んでいる傍らで、おしゃべりしているお母さんたち。生まれて2ヶ月くらいの赤ちゃんを抱いた若いママが熱心に壁に貼られた案内を見ていたり、滑り台で元気に遊ぶ子、パズルや絵本に熱中する子がいたりして、見ていてとてもほほえましく心とむひと時だった。専門知識を持ったスタッフがいろいろなニーズを持った人々に対してきめ細かく対応し、特にリスクを持った人々が自立し、よき社会人として生活できるように支援している事に感銘を受けた。カナダと日本の事情の違いはあるが、この共感的視点に立った子育て支援が実践できたらどんなに良いだろうと思った。

The Children's Storefront

説明者 リヴァ・ノヴィック

施設・活動・特徴

施設：まちの中、大通りに面した場所 1 階

開所時間 月－木 9：30－3：30

金 9：30－2：00

第 3 日曜日 11：00－2：00

活動・運営：25 年前にローカルイニシアティブプログラムを立ち上げた（地域のニーズからプログラムを立ち上げるための資金）現在はオンタリオ州の補助金 75%

理念：トロント大学で教育と発達を専攻したリヴァ・ノヴィックは都市で子育てする親と子のために「ダウンタウンオモチャとあそびのセンター」を開設した。この活動から親たちが来るのは他の親とのふれあいを求めているからと評価した。親と子のための打ち解けた、くつろげる雰囲気の場を用意したいと考え、翌年「チルドレンズストアフロント」というセンターを開設した。

子育て気の親が自由な雰囲気の中で他の親たちと出会える場、具体的には子どもの自由遊びの場と、大人がコーヒー片手に雑談できるそれぞれのスペースだけでのたまり場。開設場所は地域住民がエプロンがけで歩く生活圏に。しかも交通の便のいい表通りに面してあるべきと考えた。ストアフロントという名称にはその願いが込められている。

活動の核心部分は、「孤立と欲求不満の感情からの脱出の手助け」をして、親が生き方や子育てに自信が持て成長するように導くことを心がけている。

運営：インフォーマル（堅苦しくない）ということを大切にしている。親と幼い子どもが過ごす場所として居心地のよい親しみやすい雰囲気を作り出している。時間決めのスケジュールにすると、その時間に来られない人が参加できなくなるので、プログラムは決めないことを運営の基本方針にしている。

1 月オープン：ファミリーランチ

月に一回、第三日曜日、以前にきていた人にも声かけして、お父さんも参加してのにぎやかな昼食会を行なっている。「誰かと相談している？」「話す必要はない？」が決まり文句。おしゃべりの中から出てくる相談ごとに自分の持っている発達や福祉の知識で応えたり、他の機関への橋渡しをしたりする。

遊びの家：ごっこあそび用の服などそろえてある。

聞き取り内容

- ・ 1 日の利用者数 40 名－50 名
- ・ 洋服の交換ボックス設置 助け合いの気持ちで行っている。
- ・ スーパーバイズドアクセス（例：離婚した親が子どもに会う場所として利用できる）
- ・ 200 万 C\$ まで保険に入っているが、物損のみ対応、子どもの責任は親がもつ。
- ・ スタッフ 常勤 3 名 1 名は交代 学生 1 名

- ・ボランティア 理事会、役員会はボランティアで構成し、資金集めもする
毎日の親と子どもの接する場でのボランティアはなし

<感想>

見学と聞き取りをするなかで長年の経験と自信が感じられた
こうした専門職の関わり方が、親の育児力を育てるのであると思った

具体的な報告に入る前に、このとてもユニークな団体キナークのホームページをご紹介します。

「A 'Bridge Over Troubled Water」をキャッチフレーズに、誰でも困った時には連絡して欲しいと呼びかけるこのホームページのコンテンツには、直にインフォメーションセンターへ相談事をアクセスするプログラムも用意されている。以下、このキナークの概要についてホームページの 1 ページ目からピックアップし、キナークの予備知識を記した後に、実際の報告に入る。

もし予備知識編をお読みになって興味がわいた方は、直接アクセスしてみることをお勧めする。もちろん英文。しかし、人権の国カナダの本気で人間をサポートしようという姿勢の一端を、十分に伺い知ることができる。

[URL:http://www.kinark.on.ca](http://www.kinark.on.ca)

キナークの概要

1984年に設立された非営利団体。オンタリオ州で最大かつ信頼されている子どもメンタルヘルスセンターのひとつ。Ontario Children's Mental Health Center 協会加盟団体。

子どもと家庭への専門的カウンセリング・サービスを、子ども1人ひとり、個々の家庭に対応して行なっている。オンタリオ州政府の資金、個人及び法人の寄付により運営されている。(Ontario Trillium Foundation と Ministry of Tourism, Culture and Recreation=観光・文化・レクリエーション省から年約1億C\$) 現在、オンタリオ州地域・社会サービス省 (Ministry of Community and Social Services) の要請により、オンタリオ州内6つの地域(うちひとつはOutdoor Center)で子どもたちへのメンタル・サポート事業を行なっている。

キナークの理念

私たちの使命

「子どもとその家族の well-being をより確実なものにすることが、安全で健やかな地域づくりにつながる。このゴールを目指して、地域の人々や関連機関とのパートナーシップのもと、最高のサービスを提供するよう、私たちは努力し続ける。」

上記の使命を掲げ、キナークでは、以下の5つの基本方針をベースに、子どもと家族の支援を進めている。

- (1) どの子どもも、特別な要求を持った独自の存在である。キナークは、子ども1人ひとり、各々の家族に合わせたプログラムを、ひとつひとつ作成する。
- (2) 私たちは決して諦めない。どんなに困難な状況であろうと、どんなに根深い問題であろうとも、子ども1人ひとりの生活を改善するべくベストを尽くす。
- (3) 重要なのは、両親の子どもへの関わり方。私たちは、いつでも、またどんな家族に対しても、できる限りの問題解決の方策を働きかける、家族の味方である。また、私たちは、子ども自身の世界を尊重したサービス提供に重きを置く。
- (4) キナークは、常に新しい治療法を取り入れ、より効果的・効率的なサービスを提供できるように心掛ける。
- (5) 素早い対応を心掛ける。家族、もしくは子どもが連絡してきた時には、14日以内に連

絡を取り、なんらかの手助けを差し伸べるよう、ベストを尽くす。

“私たち Kinark Child & Family Services は家族の問題解決の専門家であり、エキスパートです。より完全で快適なサービスを無料で提供します。”

Area Program Director (Peterborough Centre 所長) の Mr. Alan Vallillee のお話から

Kinark の役割

活動のポリシーはオンタリオ州政府の法律^{注1)}のもと、「家族と子どもをできる限り一緒に過ごさせ、家族との絆を深める」こと。健常児ではなく、社会的・精神的障害を抱える児童へのサポートを行なっている。

人にはそれぞれさまざまな生活パターンがあり、そのニーズに合わせたサービス・プランを考える。ソーシャルワーカー、看護婦・精神科医などの医療関係者、心理学者などがケースごとにチームを組んで対応する。

各地ともフリーダイヤルでアクセス OK。ほとんどが、主治医や子ども保護援助協会 (CAS)、ほかの家族からの紹介で連絡してくる。

Kinark へ相談の連絡が入ったら、細かく事情聴取ののちにリスクの難易度などを評価し、サービスプログラムを作成。来所後、両親いずれかのサイン、12 歳以上は本人の承諾のサインを得^{注2)}、親子ともに承諾のもとにプログラムをすすめる。

ここで行なわれた相談や治療に関する情報は守秘義務によってかたく守られ、家族の同意許可なく関連情報にアクセスできないシステムになっている。

注1) 「Child and Family Service Act. (子ども家庭サービス法)」のこと。1960 年に制定された児童福祉法 (Child Welfare Act.) を 1984 年に改正、新たに制定された。子どもの保護を本格的に行なうためには、子どもの 'well-being' = 安寧、幸福を追求する。そのためには、子どもが生活している環境の改善を図ることを目的とし、その目的に沿ったサービスを提供しようというもの。

注2) カナダでは子どもの権利として、12 歳になると、自分に対する公的な処遇などに対して、直接細かな情報公開を受け、自らの意思による異議申し立て = アドボカシーができることが認められている。

Peterborough での Kinark の活動

Peterborough には Centre を中心に関連施設が点在し、ニーズに合わせたプログラムに従って家族や児童がそれら施設を利用する仕組みになっている。

センターには相談室が 8 室あり、13 歳から 19 歳までの児童はひとりで、それ以下は家族と一緒に、プログラムに基づいたカウンセリングなどを行なう。スタッフは 55 名 (内女性 40 名) で、質の高い基準を設定し、児童とその家族と同じ視点で考え、その人たちにとっての“最良”を目指して活動している。

センターへ来訪できないケースは、家庭を訪問するプログラムを適用する。

年間 800 世帯にサービスを行ない、各児童に独自のプランの提供を心掛けている。

リスクの難易度に合わせて基本的な 5 つのプログラムを適用、そこに細かなニーズに合わせたプログラムを組み込んで、きめのこまかい個人プログラムを作成していく。どのプログラムも、家族とともに暮らすことを最終的目標にしているのは同じ。

Kinark Peterborough County Programs

キナークでは子どもが成長するのに、まず、家庭での育ちを大切にする。したがって、家庭と子どもの育ちをサポートする **Family Service** が中心。

◎以下、ピーターボロ郡におけるキナークのサービスプログラムを難易度順に説明する。

1. Parent Education

親に向けた教育が、まず第一。親の対応で解決出来るケースもある。できる限り親を教育していきたい。

例) COPE Parent Education

4歳から12歳の子どもとその親に向けて行なう12週間のプログラム。

しつけや子どもとのコミュニケーションの仕方などを学ぶ。学校での子どもの問題行動に悩む親、子育てを困難に思う親、神経質な親などがグループになり、互いに知恵を学んでいくもの。ADD児やADHD児など、特別なケアを必要とする行動や嗜癖が見られる子どもの親なども対象となっている。

今後、強化していきたいプログラムで、0歳から4歳の子どもへの親に向けたものも開始予定。

2. Counselling

次が本人や家族へのカウンセリング。カウンセリングは難易度が高いケースでも必要に応じてさまざまなプログラムが用意されている重要なプログラムのひとつ。治療目的として心理療法、精神療法といった、より専門的なアプローチが必要な場合には、セラピー＝療法という言葉が使われる。(日本ではセラピーもカウンセリングという言葉で表現されることが多い)

例) Supportive Family Counselling, Breif Family Therapy, Individual Therapy, Family Therapy など。

3. Family First

リスクの難易度が高いのにキナークを訪問できない事情を抱えている、あるいは在宅のほうがよいと判断された家族のためのプログラム。

期間はニーズに応じて8週間から12週間。

Kinark独自のプログラムで、このプログラムに向けた特別な訓練を受けたスタッフが対応する。(“商標登録”している)

4. Day Treatment Service

9歳から14歳までの、特異な行動や嗜癖、学習困難などの理由により学校へ通えなくなり、社会的に隔絶された子どもが、関連施設 Peterborough Community School に通いながら受けるプログラム。

本人に向けたカウンセリングや、グループワーク、家族に向けたカウンセリング、地域社会で暮らしていくためのスキルの習得なども必要に応じて行なっていく。

13歳から18歳向けの Supporting Teenagers in Readiness for Independence, Vocation, and Education (S.T.R.I.V.E.) プログラムもある。

5. Residetal Service

特に難易度が高く、カウンセリングしがたい知的障害などの場合や、上記のすべてを試

みてもうまくいかない場合に、施設で生活しながらすすめるプログラムの適用となる。グループホームなど。

◎ニーズに合わせて組み合わされていくサービスには、次のようなものがある。

Family Respite

子どもの問題でへとへとに疲れている親を休ませるために、週末に1~2日子どもを預かるホストファミリー・ボランティアと、週に2~4時間子どもと外出するスペシャル・フレンド・ボランティアがある。家族の依頼による親の手代わりで、115名のボランティアがこの活動に参加、年に1万2000時間を提供している。

Clinical Services

テレビ会議ならぬテレビによる診察。専門医が不足しているので、場合によっては遠隔地からテレビを通じた診察も取り入れている。

Supervised Access

親の離婚などで親同士の関係が悪くなっているケースもある。親権問題などで裁判所の裁定が下りている場合など、どちらかの親に子どもが会いに行く場合には、必ずスーパーバイザーが子どもに同行する。

High School Outreach Service

自己尊重などのプログラム。

Win Social Skills Groups

"Parents Helping Youth" Group

親や子に向けたグループ学習会。

TAPP-C (The Arson Prevention Program for Children) Assessment

放火癖のある子どもに向けたプログラム。消防署との協働により可能となったもの。今年から始めた新しいプログラム。

Kinark を利用する子どもの内訳など

5歳~8歳 26% 9歳~12歳 35% 13歳~18歳 33%
(内、男性 59% 女性 41%)

利用児のプロフィール

学習困難	38%
大変健康	98%
身体的虐待	15%
性的虐待	12%
性的嗜癖	13%
精神安定剤服用	30%

最も大きな要因は貧困で、44%が極貧層。

(カナダでは年収2万C\$以下を貧困層と位置付けている)

Mr. Alan Vallillee のこと

アランさんは、ソーシャルワークで博士号を持ち、30年間児童ケアの仕事に従事してき

たという。彼は、話を次のように締めくくった。

「実は、ほとんどの子どもたちは健康だったのに、なんらかの事情で問題を抱えるようになった。日本でも問題となっている ADHD 児も多く、彼等はその行動が問題視され、家族はその対応に追われて途方に暮れている。

10 代になると麻薬やアルコールが重要問題として浮上。これらは性格も微妙に影響している。男子は特に乱暴。症状が重くなると動物虐待や放火などの問題行動が起きてくる。

しかし、多くの子どもたちは内に悲しみを抱え、落ち込んでいる。」

淡々と語る中に、アランさんの子どもたちへのあたたかなまなざしと、現状に対する静かな怒りのようなものが感じられた。それにしても、言葉数は少ないけれど、実に多くの問題提起が含まれている。

ここからは実際に家庭サービスの現場を統括する Mr. Stewart Engelberg にバトンタッチ。

Kinark の家族サービス活動の実際

◎Kinark へのアクセスと、プログラム開始まで

1. フリーダイヤル利用で窓口へ電話による問い合わせ

ここで出来るだけ多くのデータを収集する。

2. 電話インタビューで得られた情報の分析

窓口で行なわれるデータ収集の手法は **Blief Phone Interview=BPI** と呼ばれる電話によるインタビューで、オンタリオ州地域・社会サービス省がガイドラインを出してつくった質問集に基づいて行なう。結果をグラフ化してリスクの重要度などがはかれるようになっているなど、かなり精度の高い内容。

3. 関係者による提供サービス内容の協議

BPI の結果をまとめ、実施するサービス提供の中身について関係者間で協議。

寄せられる問題解決に向けた大きなポイントは 2 つある。

①問題を外に出しているかーなら ADHD など

②問題を内に抱えているかーなら別れなどによる悩みや不満、悲しみなどがあると考えられる。

この時、カウンセリングしがたい知的障害などの場合、レジデンスへ行ってもらう。

また、性的暴力あるいは犯罪歴がある場合は特別プログラム適応と考える。

必要に応じてソーシャルワーカーとの面談（90 分）のための予約をしてもらう。この場合は、面談結果をもとにコンサルティング・レポートを作成し、BPI レポートと合わせて関係者間で協議。

4. サービスプランの作成と実施

サービスプラン作成とともにプラン実施による利点とリスク度が検討され、一旦ウェイティング・リストへ。

現在、ハイリスク者（暴力的、自殺願望あり、家族からも見離されているケース）は 30 日以内にサービスを開始している。家族への治療のウェイティングは平均 60 日。

Peterborough では現在 285 件に直接対応しており、うち 50 件はハイリスクのケース。

今年1年間で扱うケースは750件となる見込みだが、新たに誕生したTAPP-Cプログラムを足すと900件となると予想される。

◎ソーシャルワーカーの役割

現在 Peterborough Centre には7名のソーシャルワーカーがおり、その上にスーパーバイザー（スチュワートさんがこの立場）がいる。

窓口や問い合わせの対応、サービス・プログラムの作成と遂行、クライアントとの面談など、キナークの活動の柱となる活動が、ソーシャルワーカーたちの仕事である。

また、新たなプログラムの開発と展開にも従事する。

1日に14時間が定められた勤務時間。しかし、多くが規定勤務時間以上に働いている。1時間あたりに費やせるコストもあらかじめ設定されているが、その枠内に納めるのは容易ではない。

スーパーバイザーは、窓口や問い合わせのコーディネーターや、ソーシャルワーカーたちのカウンセリングやアドバイスをしている、いわば、カウンセラーのカウンセラー、"スーパーカウンセラー"でもある。

◎家族サービスを受ける人々

低所得、低学歴、地方在住というのがサービスを受ける人々の特徴。多くは法的に判決があったためにキナークへやって来るしかない若者で、自分の意志で自発的に訪れた訳ではないので、はかばかしい効果が出ないのが実情である。

一番リソースが必要とされている人々

- ・家族が別れ音信不通となってしまう、荒れていったケース
- ・学習に障害を抱え、学校に通い続けられなくなり、精神的支えを必要としているケース
- ・なんらかの理由で自殺願望などの精神的問題を持っているケース
- ・多いのは、子どもの頃、虐待もしくはそれに近い悲惨な生活を送っていたケース
- ・PTSD（心的外傷によるパニック障害）を抱えているケース

犯罪歴のある青少年はグループホームに入り、そこでケース・マネジメントを始め、教育・精神的心理的サポートなどを受けながら、施設と協力して社会復帰を目指す。少年院というクローズ・カスタデイに対しオープン・カスタデイと呼ばれる。（カナダでも、子どもの頃の犯罪歴は18歳になると抹消され、一生ついて回ることはない。「キーも捨てられる」）

Mr. Stewart Engelberg のこと

8年間カナダ北部のカロナイフで、アルバータ州に送り出されていた先住民を引き戻し、家族と引き合わせる仕事に従事していたというスチュワートさん。「異文化との関わりや意味について深く考えさせられた」とこのこと。

キナークへ赴任したのは3年前。それまでは10年間、ある精神病院にも従事。「そこでは、どのように人を尊重しながら治療をするか、つまり人に対してやってはいけないことは何かを学びました」とウインク。日本の精神病院にも患者さんを人として扱わない風潮がいまだに色濃く残っているが、カナダも残念ながら同じところがあるらしい。

さらにスクール・サービスのマネジャーとしてスペシャル・エデュケーションプログラムにも携わっているという。これは犯罪歴のある子どもを対象にしているもの。

このように複雑で根深い問題を扱い続けてきた彼にも、どうしても対応できないケース

が、たったひとつ。それは女性に暴力を振るい続ける男性への対応だという。誰にだってウイークポイントはあるものだ。ここで、彼がきちんと教育分析を受けた臨床心理士であることが判明する。

最後にキナークで扱ったケースを紹介してくださった。本当は 3 例も準備してくださったのだが、時間切れで 1 例のみの報告となった。

紹介してくださったのは、自傷行為と強い鬱症状に苦しむ 10 代の女性の経過。知的エリート両親のもとに生まれ、彼女自身とても優秀な能力の持ち主だったのに、どうしても両親はそれを認めてくれない。キナークは 6 年間に渡り、セラピーをはじめとして、言語プログラムやアートプログラムなど、さまざまなサポートを続けたが、最後まで両親はカウンセリングに応じなかったという。やがて彼女は生まれ育った町を離れて別の州へ移り住むことを決心する。移転先でもキナークと同等の施設のサポートができるように手続きも取った。もう二度と両親とは会わない決心だったが、3 代目担当者であるスチュワートさんは、旅立つ前に一度は会ったほうがよいとアドバイス、母親と少し話をして、ほんの少し仲直りが出来たようだ。その後、母親は亡くなり、久しぶりに帰郷、「仲直りのチャンスをくれてありがとう」と感謝してくれた。仕事も見つけてすっかり前向きになった彼女の姿に、スチュワートさん自身も大変嬉しく思ったという。

話し終えた彼の胸元には、その女性からのプレゼントが。「昨日、届いたんです」と微笑む。にわかに報告が現実味を帯びて感じられた瞬間だった。

Ryerson Polytechnic University

●概要

カナダ・オンタリオ州、オンタリオ湖北に位置するトロント市のダウンタウンの中心にある、応用芸術、芸術、商学、社会学、工学、応用科学の学部を持つ工芸大学です。

社会学部や応用芸術学部の中で、早期教育学やその関連学が履修でき、理論と応用を兼ね備える教育学があるのを特徴としています。また、就業している子ども関連の担当者や、学生にファミリーサポート（家庭支援職）の認定資格のとれるプログラムを提供しています。

私たちは大学校内にあるアーリー・ラーニングセンターと、地域の中にあるジェラード・リソース・センターを見学しました。2カ所を見学後、大学施設内で担当の先生や学生も参加して昼食会を持ち、質疑応答の時間を持ちました。

(昼食会出席者)

リタ・ローゼン博士	: 社会学を長く勉強して来た。 ラーニング・スピーチ・センターのディレクターもしていた。
ベス	: アーリー・ラーニングセンターのディレクター
5人の教師	: リンダ・ハートン クリスチーナ・ハンソン パシュリタ・シャートン キャラン・ベスター ソニヤ・トロリッチ（新人で3日前に来たばかり）
アンジー・	: ジェラード・リソース・センター
ヘレイナー・	: スペシャルニーズ・インストラクター
アシスト学生	: ヘレン メイ（中国系）
(欠席)	: サハテン・モーハ（ジェラードリソースセンター責任者） マーサ・ブリックステッド（ファミリーサポートの認定資格課程）

リタ・ローゼン博士の話：

ファミリーリソースは家族中心でしたが、近年は高齢者＝老人学に注目があり、2003年に新課程導入プログラムの作成準備をしています。

1989年に研究を始めたファミリーライフエデュケーションに向けて、1991年からコースを導入して、ファミリーライフエデュケーションとファミリーリソースプログラムを作り、そこからファミリーサポートの認定資格課程が生まれました。

質疑応答

■ 学内保育の待機児が200人と聞いていますが？

A ウェイティング・リスト（ライアソン職員・学生用と地域応募用）があり、基本的には登録順ですが、空きのある年齢やスペースの関係で変わります。

■ 料金設定は？

A 名前を載せたり（予約）、登録料は無料です。

- ・インファント・トドラー 一日/39C \$ 4セント
- ・プレスクール 一日/34C \$ 50セント

行政の補助としてジェラードセンターにトロント市から 21 万 2000C\$ 毎年定額であります。残り 15 万 C\$ は募金・寄付金・寄付金活動・助成金申請・プロポータル案・民間セクターからの寄付です。

■ 学生の中での一般社会人の割合は？ その後の仕事は？

A リタの 3 年生のクラスでは 100 人中 20 人が成人です。コミュニティーカレッジで資格をとって仕事をしながらプログラムに参加する人もいます。(ディレクター・エントリプログラム) = ハーフタイム授業

資格修得後、同じ仕事に戻ったり、違う仕事に就いたりしますが、クラスの 80% は大学のティーチャーズカレッジ (小学校・高校の先生になる資格) に行きます。資格を持っていると給与面でよい (デイケアよりはるかに高い) からです。それと幼児ではなく、もう少し大きい子どもと関わりたいからです。他はデイケアセンター・病院 (小児科病室) とかに就職します。

■ 悩みを相談できる機能をもっていますか？

A ヘレイナー (スペシャルニーズ・インストラクター) がいます。

必ずしも、医療関係の相談ではありません。食べられないとか、地域社会に溶け込めないとか、母親と相談が必要か、話しをします。時々家まで行って、相談に乗ることもあります。そしてコミュニティーサービスを紹介します。

ニーズによって、リソースが必要ならば、特別な先生に会うのを紹介したり、親のニーズに合わせて特別なイベント (ワークショップなど) を開催したりします。

保育・ナーシングに関して家族のための 10 週間連続講座を開催。主に中国系の人ですが、子どもに勉強させる傾向にはありますが、小さい頃の話しかけたりのコミュニケーションの不足があったりするので、「小さい頃は話しかけたり、歌ったりが必要」とワークショップをします。

■ 行政サービス (手当とか) や他の情報はどこから収集していますか？ また、それをどういう方法で行政に届けるのですか？

A 一言で言えばロコミです。

行政のポリシーは変わるので、積極的に参加して、いろいろなネットワークを構築して、補助金とかがわかり、サービスがわかります。

オンタリオ州の今までは、社会政策プログラムに協力的ではありませんでした。特に子ども支援、児童・子育て・成人成長のプログラムサポートには消極的でした。エージェンシーをまわって、最後の手段として政府だったのが、最近は少し積極的になってきました。

今の州政府の補助金制度に地域サービス省を経由した、低所得者のものがあります。39C\$ や 34C\$ が払えない人は、面接をして、収入に見合った支払いをしてもらいます。無料から 20C\$、30C\$ とあります。

オーザックプログラムとして大学に行きたい人講義したい人が政府のローンプログラムでお金を借りることもできます。

■ ヘルスユニットやリソースセンターとの連携は？

A 地方自治体の保健局でも多くのプログラムを提供しています。必要に応じてセンターから呼びかけるとワークショップを行ったり、資料をもらえます。

若い母親対象で Nobody's Perfect のプログラムのようなプログラムを行なうこともあります。ホームアローン (10 歳~13 歳対象) といって、学校の後、夕方 1 人で留守番しなければならない子どもをどういうふうにできるか、準備プログラムをしています。

他に、フードプログラム (栄養に関して)、警察自らが道の安全や対策・訓練・研修の

プログラムを行なうこともあります。

ワークショップの特徴は何ヶ国語（ポルトガル・スペイン・マンダリン・中国語）もで行なうところです。

■ Nobody's Perfect のプログラムのようなプログラムとは？

A) 以前、勤めていたデイケアセンターで保健局の人が 6 週間行なっていました。

2 年前にできた、比較的新しいプログラムで、ハイリスクの人対象のプログラムなので、これから地域で行われようとするプログラムで、リスクが減るのではないかと、積極的に取り組もうとする段階です。

ライアソンの授業の中では、4 年間のカリキュラムの中に取り込まれています。Nobody's Perfect は親のしつけの仕方とか、基本的な知識を教えようとするプログラムで、ファミリーライフエデュケーションの一環であり、まさにこういうのを教えようとしている、予防的対策です。対策があれば、こういう問題は起こらないという考えに基づいています。ファミリーライフエデュケーションの中で理念・考えを教えようとしている Nobody's Perfect は一つのリソースで、さらに拡大していくことによって、最適な状況を作っていくという、期待されるプログラムのひとつです。

ファミリーライフエデュケーションとファミリーリソースプログラムを合併して 1999 年に **家庭支援職認定資格** を設けました。州の依頼もあって、家族にフォーカスを当てるプログラムで、ファミリーリソースのいろいろな人に提供されています。子ども = 家族 = 先生 = 学校 = 地域というのが大切なことなのです。

目的は資格を得ること。さらに知識を増やして今より、よりよい仕事ができるように。マネージメント、管理者になっていく、学士号ではなく、あくまでも資格を取るというプログラムです。

8 つのコースのうち、5 つのコアコースと 3 つの選択コースがあり、現在 55~60 人在籍していて、すべての学生がすべてのコースを取る訳ではありません。また、同時にとらなくてもよいし、順序が違って合計でとれば資格がとれます。

遠隔地教育が可能なので、今後はインターネット上での参加をすすめていく方針です。

リタ博士のメールアドレス

E-mail rhentar@sympatico.ca

Early Learning Centre

案内：ベス（17年前は教員をしていた）

●概要

インファント、トドラーの施設とプレスクールの施設が別々にあったのを、7年前に2つのセンターを統合してマルチプログラムを発足。

月～金曜 8:00～17:30、子どもはこの時間内のいつ来てもよい。ライアソン大学校内にある保育施設（4クラス構成）で、10人の教師がいる。外にプレイグラウンドもある。

※このプログラムは学長が受け入れてくれたので、発足でき成功している先駆的な例だが、ミックスクラスがあるので、州の基準を満たすのが大変だった。

●実習の場

このプログラム発足のきっかけは、早期教育学のためのテスト場作りで、年100人の学生が訪れる。早期教育学専攻の学生はここで、7週間/年実習。

キッチンシェフの手作りランチを栄養学の学生が手伝ったり、正常な子どもの様子を観察し看護系の学生が訪れたりもする。各クラスの部屋にはマジックミラーの観察室が設けられている。

●クラス構成

1クラス16人の異年齢集団（ミックスクラス）を教師3人で受け持っている。インファント3人、トドラー5人、プレスクール8人、のミックスクラス（16人）が3クラスと4～5歳クラス（10人）が1クラスあり全児童58人在籍。

▼**異年齢を混ぜたクラス構成**は、いろいろなレベルに触れさせることができ、他の子どもから学ぶ。時には違う役割を経験したり、基本的には子ども同志が学ぶと言う事。

（年齢によって役割を担当し、感情的・社会的経験をすることが有効）

同年齢のみはプレッシャーがかかったりすることが、ミックスだと緩和される。しかし、コミュニケーションがとれず行動に問題が生じやすいのが課題。

▼**障害児**は現在6人（一部屋に1～2人）。身体的・感情的障害、自閉症など。

ミックスクラスは、こういう子どもたちにとって溶け込み易い。

▼**兄弟**は原則、同じ部屋。希望があれば別にできる。

▼一人ひとりにバインダー式ファイルがあり、日常を記録していて、卒園時に渡している。

（成長記録、写真、絵など作品）

▼**病気の場合**は程度によって預かる。

風邪ぐらいならナース・オフィスがあるので、先生の診断にもよるが、治療もできるので対応する。熱や嘔吐の時は自宅。

▼**アレルギー児**のいるクラスはクラス全員にお願いして、外から食べ物を持ち込まないようにして、ここで出す食べ物はすべて手作りにしている。

●イブニングプログラム

ニーズがあって、5年前に発足。

夜間授業のある学生、教師、外出のため子どもを見て欲しい人（クリスマス・観劇）、急な利用やビジターも利用可能。

17:30～21:30（16:30まで受付OK）、～12歳まで預かる。

●入所に関して

大学スタッフ、教員は優先的に扱われるが、地域にも開かれている。

入所待ちはインファント、トドラーに多く、年 150 人～200 人いる。

・保育料はフルタイム（週 5 日授業） ～トドラー 54.00C \$ / 日
プレスクール 43.00C \$ / 日

・パートタイム（週 3 日授業） ～トドラー 39.04C \$ / 日
プレスクール 34.50C \$ / 日

※市のデイケアより安い。

●シングルマザーは 25%

今は教員の子どもの人が多いので、家族の人が多いがその年によって差がある。

●シッター

ホームケアする人は州の基準を満たした人なら資格がとれるが、ここで働いている人は保育資格や Dr. の資格を取った人が教師。

デイケアの賃金は安いですが、ここのスタッフの場合は、大学スタッフと同程度の賃金保証を得ている。

◇その他

●今ではオフィスビルの中にデイケアがないとビルの建築許可がおりないので、他にもこの様な施設があるはず。別のコミュニティーカレッジでもデイケアがある。

●補助金を州から経済的貧困と認められている人に対して 7 万 8000C \$ 受けている。

Gerrard Resource Centre

案内：アンジー、メロニー

●概要

ユナイテッドウェイ（慈善団体）の建物の一角を借りてプログラムを行なっている。大学と離れた街中にあるのは、「地域の中にある」「地域の中で子どもが育つ」という意味付けである。

保育センター、高齢者のリハビリなど同じ建物の中で、プログラムが混在して行なわれているが、互いに協力して連携ができ、成人・子どものプログラムを一体化できる。また、いろいろな年齢の地域社会のグループが一緒にいることが地域社会に貢献できるということでもある。

※「毎日がチャレンジ！」

入ってくる人が違えば、その対応をするので、毎日が同じ役割をしていない。

※通常デイケア（1日）／43C\$、トドラー／37C\$、プレスクール／35C\$

●ドロップ・イン

・月曜～金曜 8:30～11:30（月～木曜は1階多目的室、金曜は2階スペース）

・対象 0歳～6歳、両親、ケアギバー（月300人利用）／無料

教育センターと親のふれあいの場で利用者の95%は中国系移民の人。現在16家族が利用していて、45人が一部屋に集まることもある。新しくアクセスしてくる家族が1ヶ月に10～15家族あり、利用者は夏より冬の方が多くなる。

毎日、違う家族が来所してきて、今までにこういうケアを受けたことのない子どもたちが多いので、大変。アートプログラムや特別な企画（サマートリップ等）も実施。ライアソン大学の学生（現在、中国系学生メイさん）やスペシャルニーズインストラクターのヘレイナさん（他1人）がサポートしている。

※子どもが特別なサポートが必要な時、学校で問題が生じる前に対応できるのも、スタッフの中にスペシャリストがいるから。

●緊急対応

・月～水曜（週3回） 9:00～21:00

・対象 0歳～6歳、一日5人まで対応

・有料 仕事をしている家族 15C\$／日、仕事をしていない家族 3C\$／日

●トイ・ライブラリー

・水曜 10:00～12:00

・2週間貸し出しサービス（使わなくなった人たちの寄付したおもちゃや本が多い。）

・デイケア、イベント、レクチャー用にも貸し出している。

●情報照会

・月、水、金曜（週3回） 10:00～16:00／無料

・本来の目的であり、ニーズに合った情報を提供し、全体の意識を高める。

Children' s Own Museum

Children' s Own Museum (以下 COM と略す) は、子ども (2~8 歳ぐらい) がここで楽しみながら、遊びの中で、積極的にいろいろなことを学べる不思議な Museum です。

開 館 10:00 a.m.~5:00p.m.

入場料 \$ 4.75/人 (会員制などもあります)

内 容 月ごとのテーマ (11 月は、FAIRYTALES & FANTASIES!) があり、週末のプログラムや歌などは 1 日ごとのプログラムになっていて、講演会などの企画もあります。

COM の中には、多種多様なコーナーに分かれています。庭、動物病院、郵便やさん、工事現場、工作室、落書きのできる町の壁、ドレスルーム、リトミック、読み聞かせ、台所、町、音を鳴らす、ボールを転がす、・・・などなど

例えば、ドレスルームのところで、着飾り、お化粧をし、壁のところでいたずら書きをしていたり、郵便局のところで郵便局員の格好をして、はがきにスタンプを押していたり、隣の動物病院で動物のレントゲンフィルムをみたり、夢中で親も子どもも自由にのびのびと体験を楽しめるようになっています。

スタッフも 7 人 (土・日は 8 人) が、それぞれの所で、ファシリテーター役をし、訪れたひとを楽しく夢中にしてくれます。(ボランティアも 3~8 人が活動していて、40 人のスタッフがいます。)

(もちろん、私たち全員スタッフの手を借りることなく、童心に戻った笑顔で、はしゃいでいたようですよ!?)

- その他
- COM は、非営利団体で、この入場料は、全体予算の 40%にあたる。政府からの補助金を受け、企業がスポンサーになっています。
 - この COM が出来るまで計画から 10 年かかりました。1998 年にできましたが、来年 9 月に引っ越す予定です。狭くそして、エレベーターが無いなどの諸事情によります。
 - 2 階が入り口、受け付けになっていて、ベビーカーの置き場があります。少しですが、お土産の販売もありました。
(探しものの絵本「Paper back のお姫さま」を見つけたのもここです!!)

FAMOUS PEOPLE'S PLAYERS

Famous People Playersによるディナー・ショー

創立・劇団代表 ダイアン・リン・デュピイ

Famous People Players(以下 FPP と略す)は、製作スタッフを除いて、出演者は、みな知的障害者の劇団です。(創立から 30 年ぐらい?)

劇団代表のダイアンは、高齢化する劇団員の将来を考え、レストラン付きのディナー劇場を常設し、そこで彼らに料理や接客を学ばせ、職能を身に付けるという夢を実現したのが、これです。

現在は 2 つの劇団を持ち、世界中を巡業するまでに至っています。

ショーは、真っ暗な舞台の上を登場する人形が、表面に蛍光塗料をぬられ、紫外線照明に浮き照らされて乱舞します。その音楽、演技、色彩、照明が一体となる光のマジックに魅了されます。

私たちは、まず劇団員である彼らが作ったメインディッシュを彼らに運んでもらいおいしくいただきます(もちろん、今回の食事で 1 番のご馳走でした!)。途中、ダイアンが登場し、たのしく挨拶をしながら、私たちのことも、「日本からのゲストです。」と紹介し、「日本のどこからきたのですか?」なんて聞かれました。5~6 人来ていた子どもたちにも声を掛け、みんなに紹介されました。1 時間くらいかけて食事をしたあと、上にある劇場に移動し、そこで、ショーを楽しみます。先ほど紹介された子どもの一人が舞台に呼ばれ、ベートーベンを模した着ぐるみのがぶり、指揮棒を手にもたされ、音楽は流れます。ダイアンに言われるがまま、その子どもは、指揮者になりきってくれます。

とこんな風になごやかに、ゆかいなショーを楽しみました。そのあと、先ほどの食堂に戻り、好きなケーキを選び、また楽しい会話をのんびりしながら、デザートをいただきました。部屋の移動をする間の壁には、これまでの活動の写真がたくさん掛けられ、ここに寄附をされたひとの名前の入った星型の飾りが大小、色とりどりについています。

(私たちも生活クラブ運動グループって名前入りのおおきな星を記念に残したかったかな?)

—参考文献—

- 「地域から生まれる支えあいの子育て」 ひとなる書房 小出まみ著
- 「サラダボウルの国カナダ」 ひとなる書房 小出まみ・伊志嶺美津子・金田利子

—用語説明—

● 年齢総称

Infant 0 ヶ月～18 ヶ月

Toddler 15 ヶ月～2.5 歳

Preschool 2.5 歳～5 歳

School age 6 歳～12 歳

● ピアサポート (peer support)

peer とは同僚、同じ境遇の者という意味。文字通り同じ境遇の人同士で支えあうこと。アルコール依存症や摂食障害などの治療の一環として、同じ症状に悩む者同士で語り合うピアカウンセリングの手法が効果を挙げていることはよく知られている。お互いの境遇を語り合うことで「私だけではなかった」と精神的にも支えられるだけでなく、有益な情報交換もできる。

● 葉酸

葉酸とはビタミン B 群のひとつ。ほうれん草などに多く含まれ、造血作用があるとされている。近年、特に摂取を心がけたい栄養素として、栄養剤などでの補給が推奨されている。

● ドロップイン Drop-in

ふらりと訪れるというような語感から「たまり場」と訳されている。親と子が都合の良い時間帯・回数で自由に利用できる遊び場。70 年代頃より自然発生的につくられ、個性的で多様な機能を持つ各地のファミリーリソースセンターの基盤となった。

● アウトリーチ Outreach

サービスを提供する側から利用者側へ出向いて手を差し伸べる方法。例えばリソースセンターのスタッフが車におもちゃや絵本、大型遊具などを積んで地域を巡回し遊び場を開設するなど。

● ファミリーリソースセンター Family resource centre

家庭資源センター。家庭を支える物的・人的資源から情報や精神的な支えまでも含むサービスを提供する。リソースという言葉には「困った時の頼み」というような意味もある。多くは無料で親子が気軽に行けるように不特定多数の利用者に開放されている。

● ファシリテーター

この場合は話し合いがスムーズに進むようにサポートする進行役。

● アイスブレイカーゲーム

初対面の参加者同士が緊張をほぐし、打ち解ける雰囲気を作れるように行なうゲーム。

● CAS : 子ども保護援助協会

日本の児童相談所のようなもの。主に虐待に関して、16 歳以下の子どもへの不適切な関わりについて、子どもなどからの申し立てを受けた際に調査をし、子どもを保護し、家庭へのカウンセリング等を行ない、法に基づいた活動をしている。

「あそこの草地は青々としていて、それはそれは美しいから行って見てきてごらん。」と言われ行ってみた。確かに素晴らしかった、そこに漂う風さえもやさしく。でも、来た道を振り返った時、点々と芽生えている緑が見えた。なあーんだ、耕したり、種まきはしていたんだ！

この緑をみんなで大事に育てよう！それが今の気持ち・・・。ところで皆さん、Are You Happy?あの笑顔忘れずに歩き出そうね！
山中 ゆう子

ピーターボロ初日の夜、ホテルの向かい側のコーヒーショップで打ち合わせをしていたら、中年のご婦人がにこやかに近づいてきて、何やら話しかけて来た。さだかではないが、英語ができない私たちが気の毒に思ったようで、日本語ができる友達の電話番号のメモをくださったが、とても親切にいろいろ話して下さったが、いいかげんな英語と思いきりの笑顔でしか応答できなかったのが、とても残念だった。親切なカナダ人気質を垣間見る思いがした。

穉近有子

ピーターボロでの最終日（10日）に日本の家族にあてて出した絵はがきが、なんと11月19日のあさ我が家に届いた。はがきを託したフロントのお兄さんを疑った自分を恥ながら、おそらく炭そ菌の影響であろうと納得。たくさんの情報とともに無事帰ってこられたことに改めて安堵した。

森下 典子

カナダは世界一人権が守られているということを感じたいと参加。ハイリスクの様々な国の人を受け入れ、20年後には税金を払えるようにするという人育て、親育ての懐の深さを実感できた。朝食の野菜がフライドポテトやフレッシュジュースで高脂肪・高カロリー。通訳さんがビタミン剤を売っているお店を紹介した意味も、カナダ人が体がこ～んなに大きいのも納得。日本食の素晴らしさを再確認。ピーターボロのまちに日々出没し、たかって買い物をする一群。ああ日本人！

竹川 伊都子

子どもとその家族への支援の現場を視察、ということで、小学4年生の娘を伴って参加した。子ども支援の確かさを、子どもの視点で感じてもらおうという気持ちがあった。

娘は初めての海外。「本当にここはカナダなの？」と思っただらしい。ファーストフード店の看板はお馴染みのものだし、日本にもソマリア人やアメリカ人の友人がいたんだから、変わることはない。唯一違ったのが、言葉だ。

視察先ではどこも娘を歓待して下さり、娘にだけ特別なプレゼントをくださった方もあった。それでも、彼女の「言葉が通じないこと」への恐怖は日ごとに増大していきたく、ライアソン大学内のアーリー・ラーニングセンターの5歳児クラスで「彼女はここで過ごしていけ」と声をかけられた時の凍り付いた表情は忘れられない。もっとも迎えに行った時、すっかりその場に馴染んでここにこしていたのだけだ。

これで度胸がついたのか、チルドレンズ・ストアフロントではメアリアンさんとすっかり仲良しになり、帰りたくないと思えそをかいた。

トロントを発つ日の朝、娘はぼつりと言った。「言葉は通じなくても、心は通じるんだということが、よく分かった」

グッドストロークにはグッドストロークが返ってくる。それは言葉でなくてもかまわない。人に対する眼差しのあたたかさが、支援のベースになる。からだで感じたことが一番確かだ。

當間 亜美&紀子

「テロに気をつけて」「カナダは紅葉がきれいだよ」と送り出されて1週間。ピーターボロのホテルでの朝食は、朝霧たちこめて幻想的な湖を見ながら優雅なひとときでした。真っ黄色や真っ赤なメイブルの紅葉に、歓声をあげ、トロント大学のキャンパスの建物が100年以上の歴史に包まれ感嘆しきりでした。でも、何より収穫があったのは、人権先進国の子ども施策の手厚さを目の当たりにしたこと、そして、ツアー仲間との夜の語りでした。

安部 宝根

トロントで停車中のバスから歩道を眺めていると、次々に通り過ぎて行く人たちの人種が毎回違うことに気づきました。まさに多民族国家...を実感です。また、視察先のスタッフがキナークを除いて全て女性ばかりだったことも、印象深いことでした。メンバーは皆さん熱心で、夜中までまとめや準備で話し合っていました。午後3時は絶対に睡眠魔が襲う時間でした。

藤木 千草

カナダ旅行最後の夜、FAMOUS PEOPLE PLAYERS鑑賞にトロントの街へ出かけました。劇が始まるとほどなく舞台に引き込まれていきました。音楽もうっとり波の様、zzz。気がつくとなんと終わりに近づいているところでした。まわりを見回すと、見知った寝顔がちらほらと。しかしみなさん劇の終了までにはちゃんと目を覚まして、また観劇している姿はさすがツワモノ。お疲れ様でした。

橋本 冴子

いつか行こうと決めていたカナダでの初めての朝「着いたよ」の電話に「戦争が始まったぞ、大丈夫か」と夫の声。帰ってから姑に「無事帰ってこれるよう毎日神様にお祈りしてたからね」と一言。連日の視察と夜毎の語らいにときを忘れていた間、家族には心配をかけたようだ。帰る日の朝散歩に出た。公園にリスがいた。その景色に私達も溶けていた。全てを包み込む人として安心して暮らせるまち。そのために必要なものを手に入れてきた人達と出会えた。

佐藤 優子

「帰れないことになるかもしれない」と、家族に言い残しての旅でしたが、いってみればアメリカの惨事は何事もなかったように穏やかで落ち着いたピーターボロの街が私たちを迎えてくれました。何と自然が豊かなことか。

どの視察先でも説明してくれた女性たちが生き生きと自信に満ちていたことがととえも印象的。やりたいと思った人がまず始める。行政のサポートはその後ついてくる。実感でした。

片桐 絢子

夜のトロント空港に到着後すぐにバスに乗りピーターボロに向かいました。

現地添乗員さんが「州の法律で夜間のハイウェイ走行では車内灯をつけることは禁止されています」と説明された言葉が耳に残っています。実際、ほとんど街灯のない真っ暗なハイウェイを、車内を暗くしたバスで進んだときには多少の威圧感を感じました。考えてみれば理にかなっていることです。安全に対する堅実さを感じます。一週間の旅を振り返った時にも随所で“課題に対してシンプルで率直な対処”をしているという印象を持ちました。

山本和恵

3月に手探り状態のまま、子ども支援を始めました。居場所作り、ほっとできる場をめざして……。そんな時カナダ視察を知り、なぜカナダなのかと思ひながら、研修会に参加するだけでも思い仲間入りしました。

でも、話を聞けば聞くほど「行かなくちゃ！」という気になり……。という訳です。「行ってよかった！」自分が何を考えているのか、方向がはっきりしてきたし、今までの「顔なじみをつくろう」ということや、お母さんのためのちょっとした「講座」、「親子で遊ぼう」、というのがドロップ・イン的なことだと言うのもわかりました。

そして、何よりも心強い16人の方向性を同じにする仲間ができました。他の子育て仲間と情報交換や訪問をしながら、初夏のドロップ・イン目指して楽しくやっています。

能津 恵子

私は、この度のツアーが、初めての海外旅行でしたので、旅行そのものがエピソードでした。ツアーのメンバーの皆さんのお蔭で英語のまったくといていいほど解らない私が、夕食にも困らずにすみました。そして、又、メンバーの皆さんの、すごさにはただ、感心するばかり、度々予定の時間をオーバーしてJTBの方を、ドキドキハラハラさせた場面も、でも、後半は、そのパワーにすっかり押されていた能津 Jr.では？真夜中にいったコーヒーショップで親切に声を掛けてくれて、困った時にここへ電話しなさいと、日本の人のアドレスをくれた女性の親切にカナダ最初の日からの感激でした。

浜本 正子

気持ちを洗われるようなきれいな秋の景色にとにかく感動！空は広く木々の色は美しく……。周りすべてが澄んでいる、ピーターボロの町で見た景色は忘れられない。

お会いした女性は穏やかで、優しさや頼もしさを包み込んでいるそんな素敵な方ばかり、それなのに自分に語学力も、それに代わる表現力もなく思いを伝えられなかったことは悔やまれました。でも、メンバーそれぞれから支えられ、刺激も沢山受け、夜のゆんたくも楽しかったし、本当にのりのり多い1週間を楽しく過ごすことが出来ました。皆さんに感謝します。

板垣 洋子

「やっぱり行くの？」と仲間の声に送られて初めてのカナダでした。

沢山のNPOを視察して、「行ってよかった」百聞は一見にしかずでした。

カナダ到着の日すぐに親切なカナダにふれたこと、毎日感動の日々でした。

「トロントまで行ってナイヤガラ滝にも行かなかったの」と家族に感心されたけど、全員元気に無事帰国できたことは、本当によかった。

高井浩子

ツアー参加者名簿

	氏 名	住 所
1	穉近 有子	西東京市
2	浜本 正子	大田区
3	竹川 伊都子	府中市
4	佐藤 優子	足立区
5	高井 浩子	江東区
6	片桐 紘子	国立市
7	當間 紀子	大田区
8	當間 亜美	//
9	香丸 真理子	東村山市
10	安部 宝根	調布市
11	板垣 洋子	西東京市
12	山中 ゆう子	立川市
13	藤木 千草	国分寺市
14	山本 和恵	大田区
15	森下 典子	西東京市
16	能津 恵子	中野区
17	橋本 冴子	練馬区